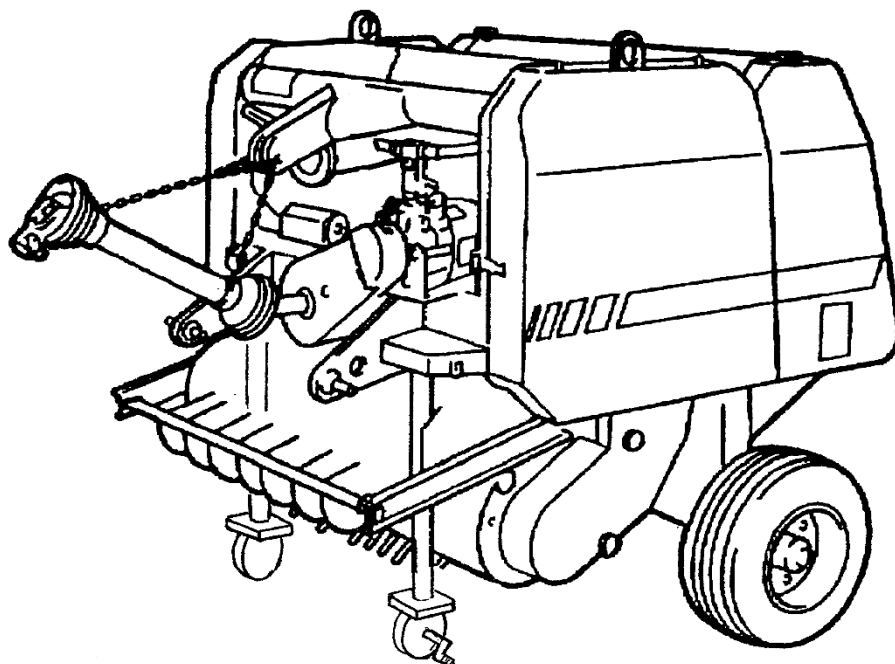


取扱説明書及び部品表

Takakita

ミニローバレーラ

RB-511DX



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**ミニロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。

ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき、最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	19
各部の名称とはたらき	20
トラクタへの装着	21
1. 3点リンケージへの装着のしかた	21
2. ユニバーサルジョイントの取付け	21
3. オートヒッチへの装着のしかた	22
4. コントロールボックスの接続	22
運転に必要な装着の取扱い	24
1. 油圧装置の取扱い	24
2. コントロールボックスの取扱い	24
3. トワインの取付けのしかた	26
4. トワイン巻付けピッチ調整のしかた	26
5. トワイン案内金具の位置確認	26
6. 梱包圧感知装置の取扱い	27
7. トワイン自動繰り出し装置	27
8. トワイン切断感知装置	28
9. ベールキッカーの取扱い	28
10. ベールシフターの取扱い	29
11. タイトチェン注油装置の取扱い	29
作 業 方 法	31
1. 作業手順と要点	31
2. 移動・急旋回のときは	32
3. ピックアップドラムの高さ調整	32
4. 牧草の拾い上げ方法	33
5. 切断ワラの拾い上げ方法	33
6. 長ワラの拾い上げ方法	33
7. P T O回転速度	34
8. 梱包作業方法のまとめ	34
9. 傾斜地での作業	35
作業前の点検について	36
簡単な手入れと処置	37
1. パッケージチェンの張り調整	37
2. 駆動チェンの張り調整	37
3. 中間チェンの張り調整	37
4. ピックチェンの張り調整	37
5. タイトチェンの張り調整	37
6. トワイン繰り出し調整	38
7. トワイン結束装置の調整	38
8. シェアボルトの交換	39
9. タイヤの点検・修理	39
10. 各部への給油	40
11. 長期格納時の手入れ	40
不 調 診 断	41
付 表	43
1. 主要諸元	43
2. 主な消耗部品	43
3. 電装の位置	44
4. 配線図 1	45
5. 配線図 2	46



安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある**!**表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

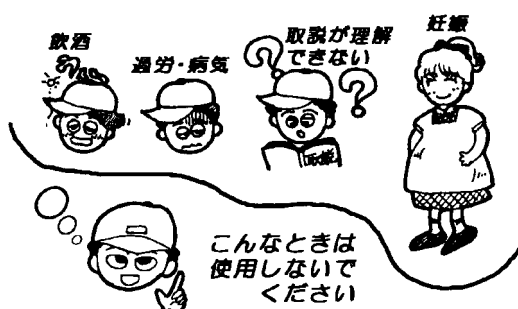
機械を貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

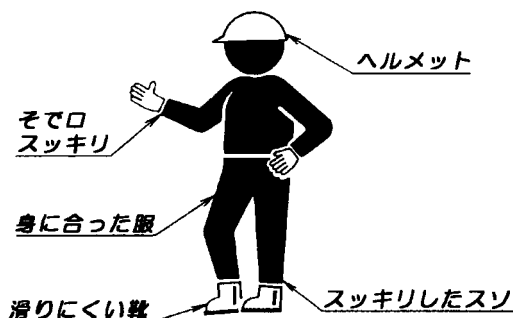
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力

型 式	適用馬力 kW(PS)	装着方法
RB-511DX	12.5~22.1 (17~30)	3P 直装

● 3点リンケージ規格： カテゴリO・I

● PTO回転速度： 540rpm

● 電源用バッテリー： DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

3点リンケージを装着して持ち上げたときに、総重量の20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。

もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウェイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着しないでください。

(5) バランスウェイトの取付け

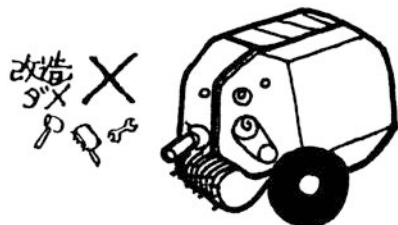
トラクタのバランスウェイトは指定された部分に指定されたウェイト以外は取付けしないでください。



安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。また、改造をしないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は稲ワラ、麦ワラ、牧草の拾い上げ梱包作業を目的とした機械です。他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業できるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、PTOを切り、トラクタのエンジンを停止して、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取り除き、機械を常にきれいにしてください。





安全に作業するために

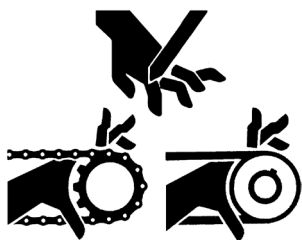
(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

チェンへの注油は、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。



また、油圧パッケージへの給油は、高温のときには行わないでください。

注 意

各チェン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分注油してください。また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

(9) コントロールボックスの電源脱・着は

トラクタのバッテリーより電源を取り出します。

その取付け方法は、(+)側から行ってください。外す時は、(-)側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。



つける時は(+)側から
外す時は(-)側から



(10) タイヤの点検・修理をするときは

- ①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。
- ②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- ③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- ④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店へ依頼してください。



◆本機に装着しているタイヤの サイズと規定空気圧

タイヤサイズ 16×6.50-8 4PR

空気圧 2.0kg/cm²以下



安全に作業するために

(11) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。コントロールボックスはトラクタより取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

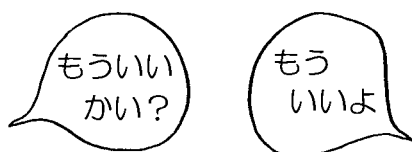


(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触れないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するときは

PTOを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

安全確認

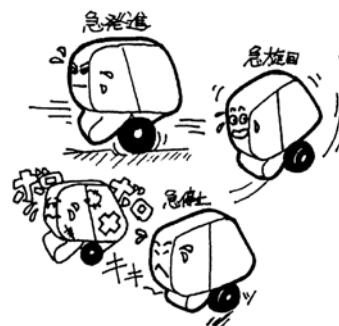


(5) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

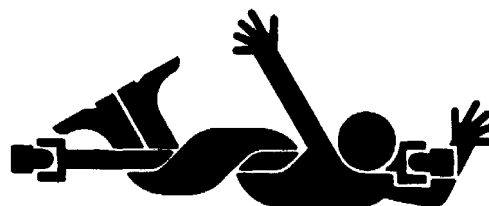
また、起状の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。



(6) 回転中のユニバーサルジョイント

には触れない

回転しているユニバーサルジョイントに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



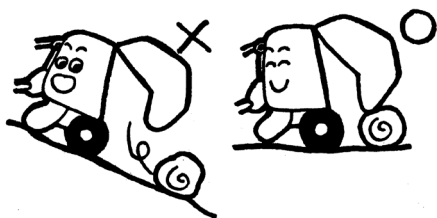


安全に作業するために

(7) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

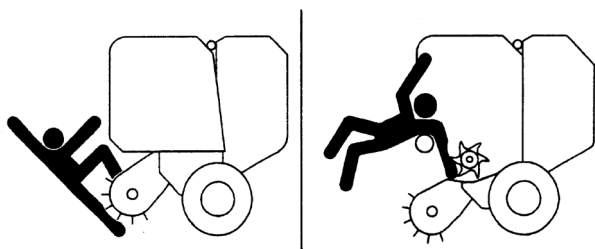
- ①斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。
- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。守らないと、転倒する危険があります。
- ③傾斜地でのバール放出は、谷側にバールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。



(8) 回転中のピックアップドラムや

タイトバーには触れない

回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



(9) 移動および作業の旋回のときは

トラクタに本機を装着しての移動やほ場での旋回は、必ず3点リンケージでリフトアップしてから行ってください。急旋回は危険ですので行わないでください。

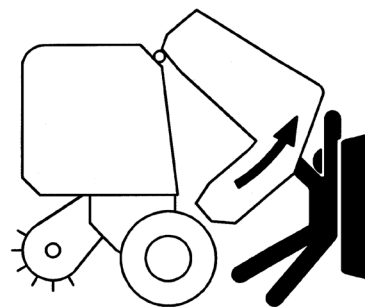
(10) シェアボルトの交換や

巻き付き草などを取り除くときはPTOを切り、エンジンを必ず停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。



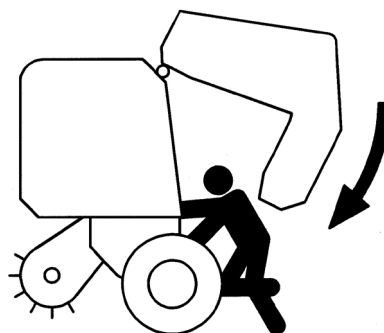
(11) バールを放出するときは

バールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



(12) チャンバーを開けて作業するときは

必ずチャンバー降下防止処理をして、PTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

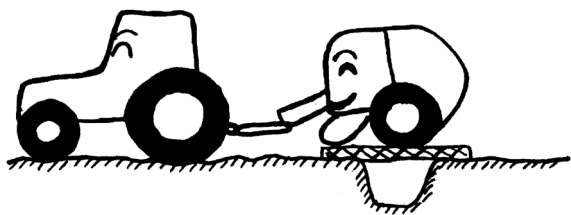




安全に作業するために

(13) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは
スリップや転倒による事故を防ぐため
に、幅・長さ・強度が十分あるスリッ
プしないアユミ板をかけ、最低速度で
通ってください。

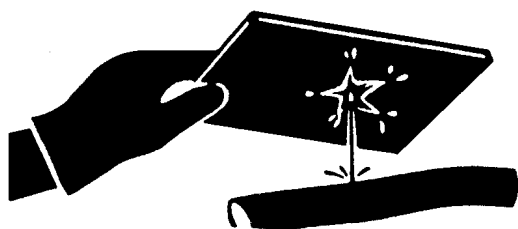


(14) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に降ろし、PTOを切り、
エンジンを停止し、駐車ブレーキを
掛けてください。

(15) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に
浸透する程の力があり、傷害の原因に
なります。
- ②高圧油による傷害を防止するために
配管・ホースなどの取外し前には必ず
残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは
正しく確実に締め付けてください。
- ④非常に小さな穴からの油漏れは、ほと
んど目に見えないことがあります。
手で油漏れを探すことはやめてくださ
い。必ず、保護メガネをかけ、紙など
を使用して調べてください。

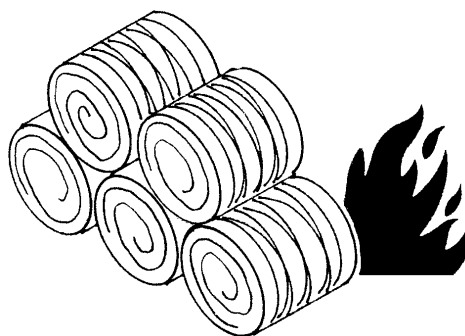


- ⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、
強度のアレルギーを起こす恐れがあり
ますので、すぐに医療機関を受診して
ください。



(16) 乾草火災に注意

乾燥不十分な牧草をバールに成形する
と、バール内部からの発火により火災
が発生する危険があります。
バール成形後2～3日間は、風通しの
良い屋外に仮置きした後、屋内に収納
してください。

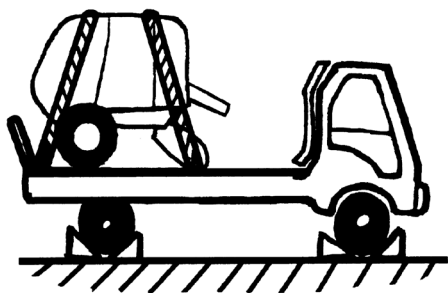




安全に作業するために

4. 輸送するときは

- (1) トラックなどへの積み込み・降ろしは平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。

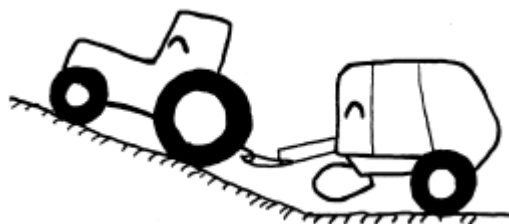


機体を吊り上げる際は上部の吊り位置を使用してください。



(2) ピックアップを移動位置にする

特にほ場から出入りする場合は、ピックアップの破損事故が起こりやすいのでピックアップは最上げの状態で移動位置にしてください。



以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。



安全に作業するために

5. 公道走行するときは

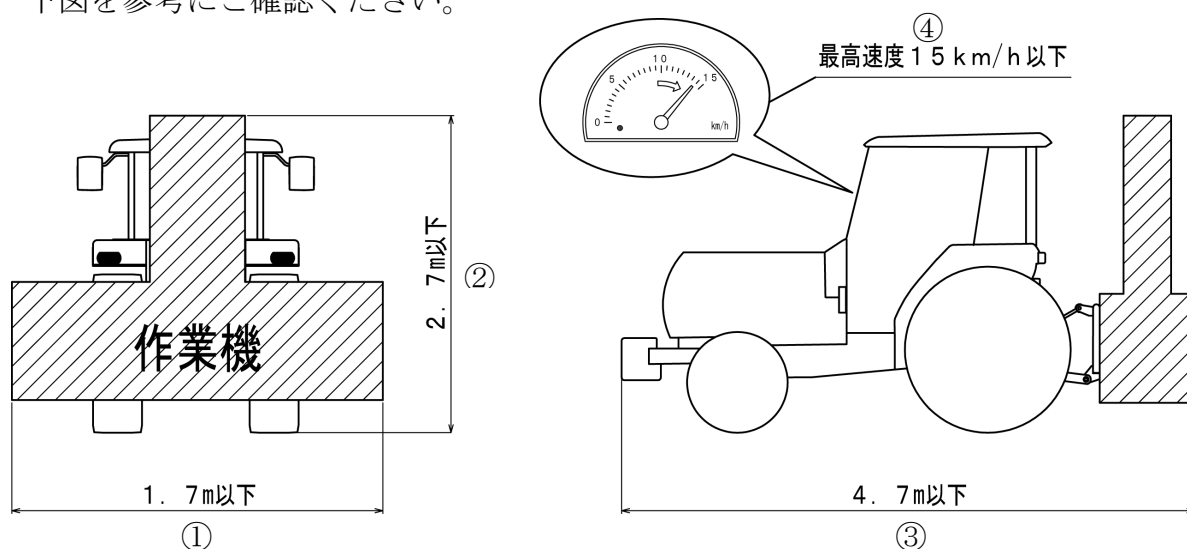
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、直装タイプの作業機で公道を走行することができます。公道走行する際は、下記項目を確認したうえで必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタ単体の場合、道路運送車両の技術基準(保安基準)の適合性を確保できる農耕トラクタであれば小型特殊免許/普通免許及び大型特殊免許(農耕用に限るも、含む)で運行可能ですが、トラクタに作業機を装着した際に①～④の数値をひとつでも上回る場合、**大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)**が必要となります。

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ① 全幅1.7m | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレームは2.8m) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。



(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

	農業用小型特殊自動車	農業用大型特殊自動車
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを <u>すべて超えない</u> 場合	公示一括緩和を適用した車両として申請や登録は必要ありません。	全国の運輸支局等で検査登録が必要です。
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを <u>いずれかを超える</u> 場合	- 全長12m、全高3.8mのいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 - 道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。	- 検査登録が必要です。 - 全長12m、全高3.8mのいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 - 道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。



安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～④を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行するための追加装備を取付けてください。

①作業機最外側からトラクタの灯火器類までの距離

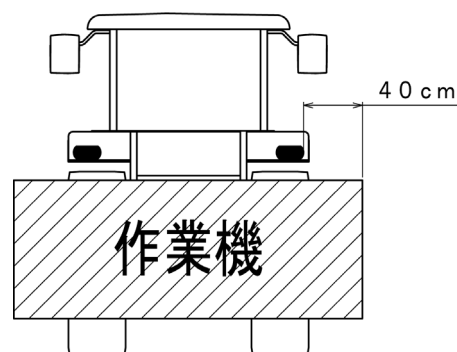
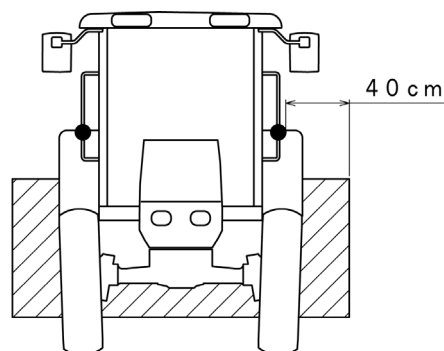
トラクタの後退灯以外の灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内にある。

YES

NO

①での追加装備は必要ありません。

前面:A.白色反射器
後面:B.赤色反射器
C.制限標識
を取付ける必要があります。



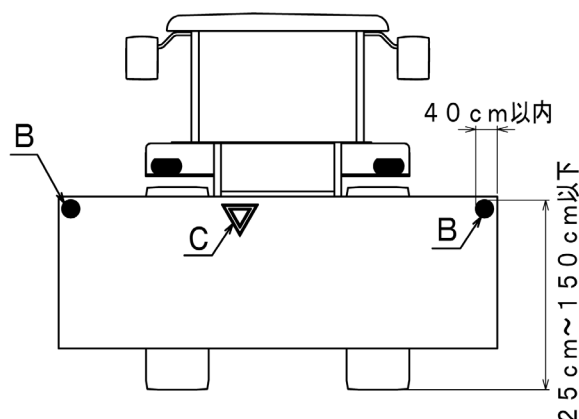
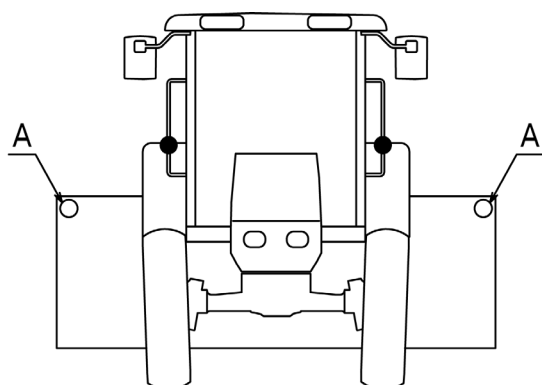
A.白色反射器	B.赤色反射器	C.制限標識

●装備の取付け位置

道路運送車両法の保安基準により、各種灯火器類取付け位置が定められています。

- ・ Aは前面の両側に、可能な限り最外側を取付けてください。
- ・ Bは後面の両側に、作業機の最外側から40cm以内、高さが地上25cm以上150cm以下の場所に可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ Cは後方から確認(視認)できる位置を取付けてください。

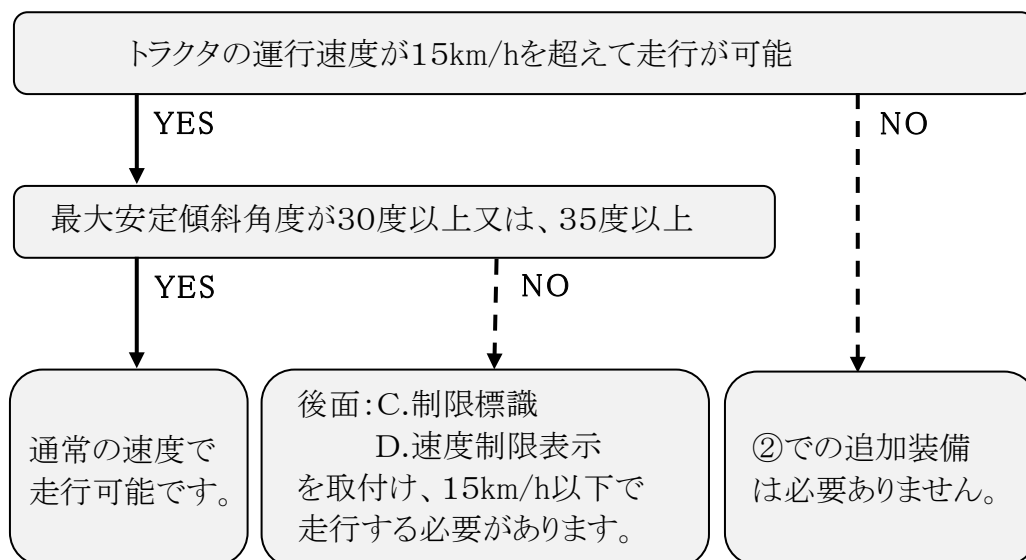
(取付け例)





安全に作業するために

②トラクタの運行速度



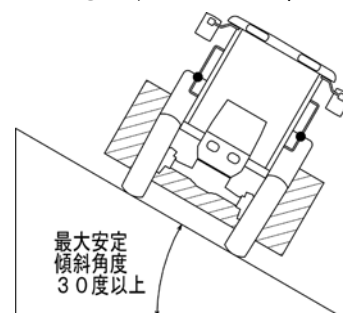
- 運行速度が15km/hに制限されないトラクタと作業機との組合わせについては日農工のホームページ(<http://www.jfmma.or.jp>)をご覧ください。
- 最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上または、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上または、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常で速度で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Cを作業機に表示、Dを作業機・運転席に表示を行う必要があります。

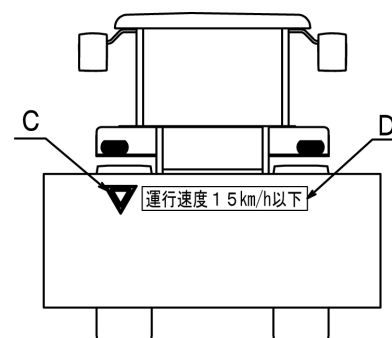


●装備の取付け位置

- ・C、Dは後方から確認(視認)できる位置に取付けてください。
- ・Dは運転席にも表示する必要があります。

(取付け例)

C.制限標識	D.速度制限表示





安全に作業するために

③トラクタの灯火器類(後部反射器、コンビネーションランプ(尾灯・制動灯・方向指示器)、後退灯)の視認性

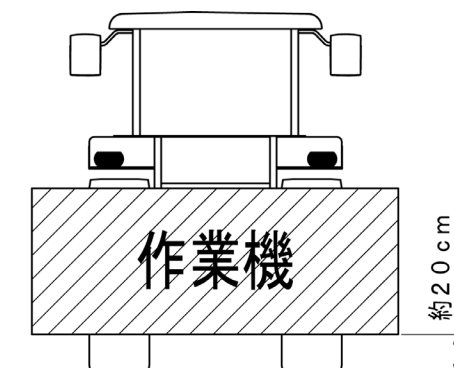
作業機の機体最下部を地面から約20cm上げた状態で後方から確認し、トラクタの灯火器類が視認できる。(※1)

YES

③での追加
装備は必要
ありません。

NO

・後退灯のみ視認できない場合は
可能な限りトラクタ上で移設してください。
・視認できない灯火器類は、作業機
に取付ける必要があります。
※取付けは販売店にご相談ください。



●装備の取付け位置

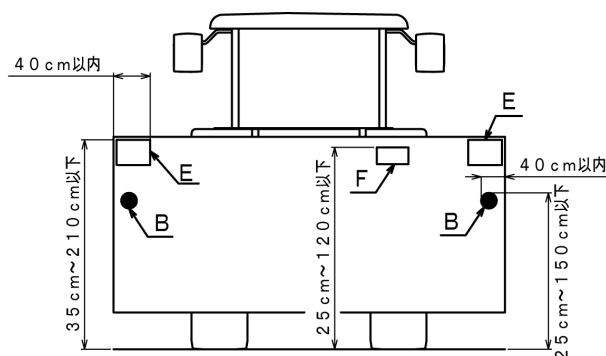
・各種灯火器類の取付け位置は以下のように定められています。

- 後部反射器(リフレクター) 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
- 尾灯(テールランプ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- 制動灯(ブレーキランプ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- 方向指示器(ウインカー) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
- 後退灯(バックランプ) 高さは可能な限り25cm以上120cm以下

- ・B、Eは後方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・Fは後方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たすように取付けてください。

(取付け例)

B.赤色反射器	E.コンビネーションランプ	F.後退灯
		

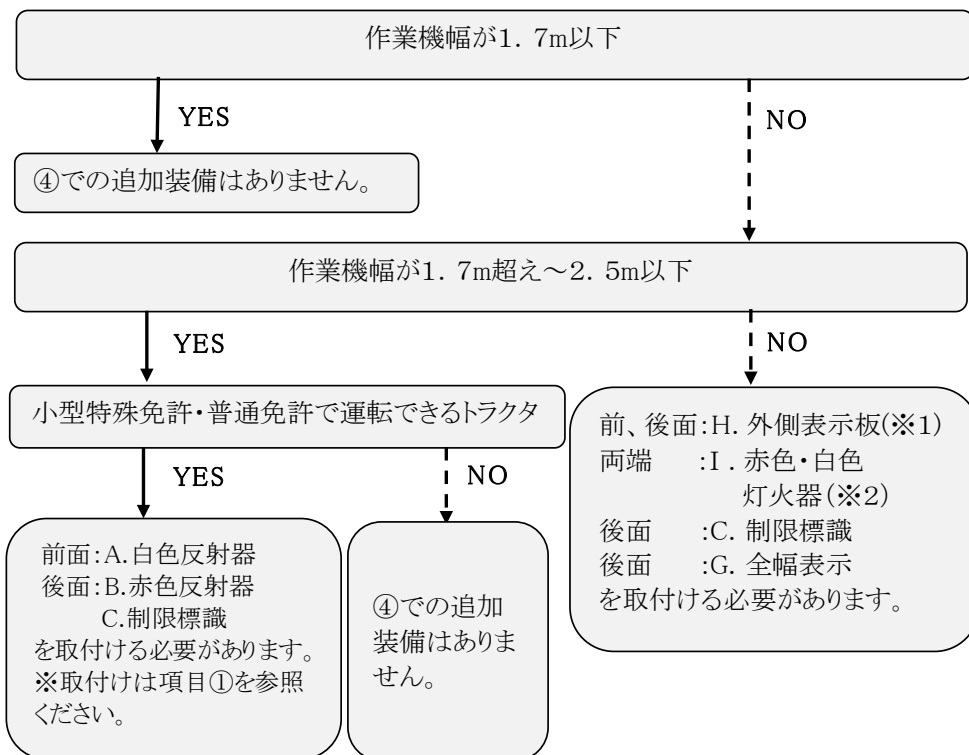


※1 単体で長さ4.7m以下、全幅1.7m以下、高さ2.0m以下、かつ、最高速度15km/h以下である農耕用トラクタの場合、尾灯・制動灯・後退灯は取付け義務が無い場合、装備されていない場合は確認の必要はありません。

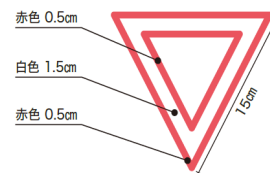


安全に作業するために

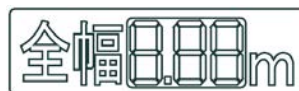
④作業機装着時の全幅



C.制限標識



G.全幅表示



※運転席にも表示する必要があります。

H.外側表示板



I.赤色・白色灯火器



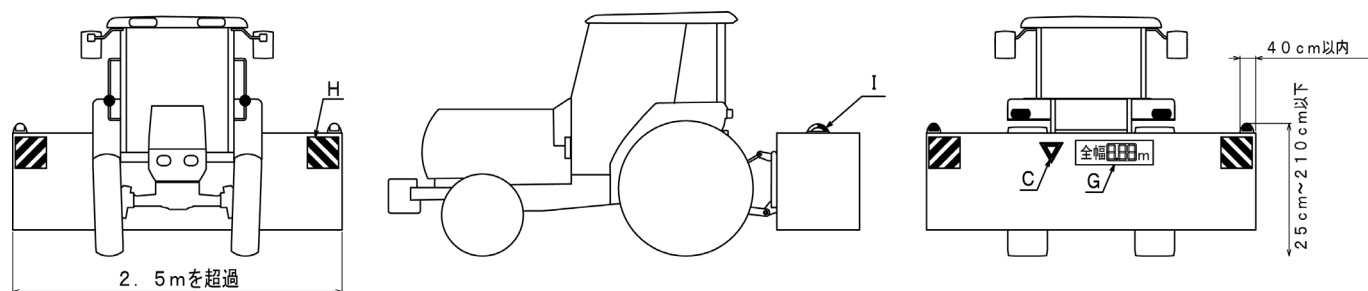
※1 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以上ある場合、反射器が必要になります。しかし、当社の外側表示板は反射材を含んでいるため、反射器は取付け不要です。

※2 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以内の場合、取付け不要です。

●装備の取付け位置

- ・C、Gは確認(視認)できる位置に取付けてください。
- ・Hは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。
- ・Iは可能な限り最外側に取付けてください。また、前面が白色、後面が赤色になるようにしてください。

(取付け例)

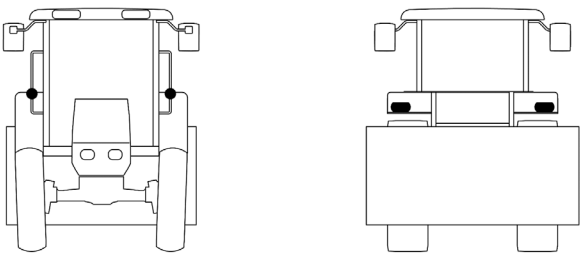
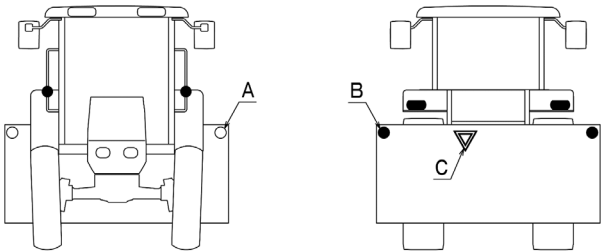
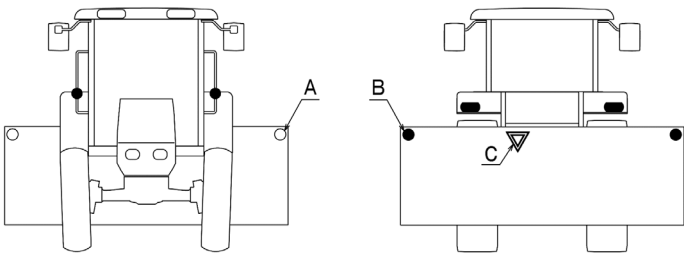
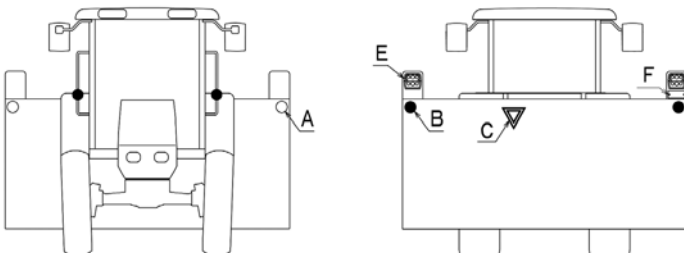




安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取付け例

トラクタに作業機装着時の寸法が、全幅2.5m、全高3.8m、全長12m以下の場合

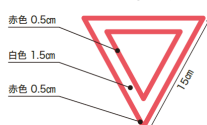
灯火器類の視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	トラクタの灯火器類が <u>全て視認できる</u> 場合	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	(ア) 視認性による取付け部品無し 
		灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内、かつ <u>小型特殊免許・普通免許で走行できるトラクタで幅1.7mを超える作業機を取付ける</u> 場合	(イ) 
		作業機の最外側から40cm以上離れている灯火器がある場合	(ウ) 
	トラクタの灯火器類で <u>視認できないもの</u> がある場合		(エ) 例：(ウ)に灯火器類を取付け 

灯火器・ステッカー

A. 白色反射器 B. 赤色反射器



C. 制限標識



D. 速度制限表示

運行速度15km/h以下

E. コンビネーションランプ



F. 後退灯



G. 全幅表示

全幅8.88m

H. 外側表示板



I. 赤色・白色灯火器





安全に作業するために

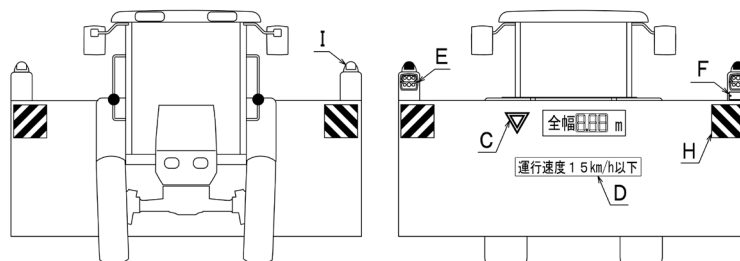
灯火器類・ステッカー取り付け例

			トラクタに作業機装着時の全幅が2.5mを超過する場合
灯火器類の視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	トラクタの灯火器類が 全て視認できる 場合	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	(オ)
		作業機の最外側から40cm以上離れている灯火器がある場合	(カ)
	トラクタの灯火器類で 視認できないもの がある場合		(キ) 例：(カ)に灯火器類を取付け

※全幅が2.5mを超過する場合は、道路管理者(国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。

p.10「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

例：(キ)に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認してから公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除してください。

詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。
 その他不明な点は、お買い上げ頂いた販売店にご相談ください。



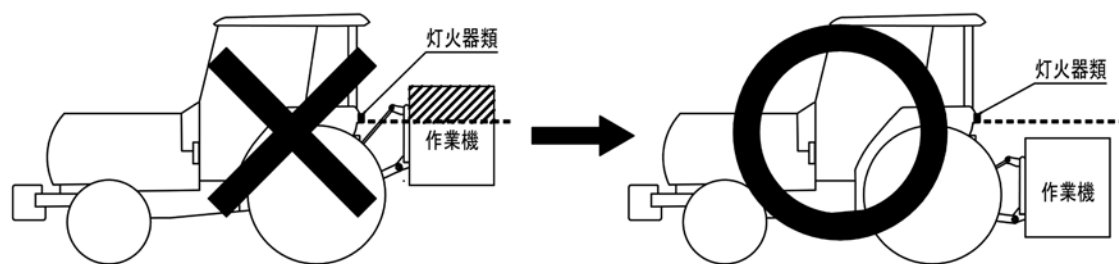
安全に作業するために

(4) 公道走行時の注意点

- トワインが伸びて公道走行の妨げになる恐れがあります。
公道走行時はトワインを外してください。

全ての直装作業機は、公道走行時の作業機高さについて次の注意が必要です。

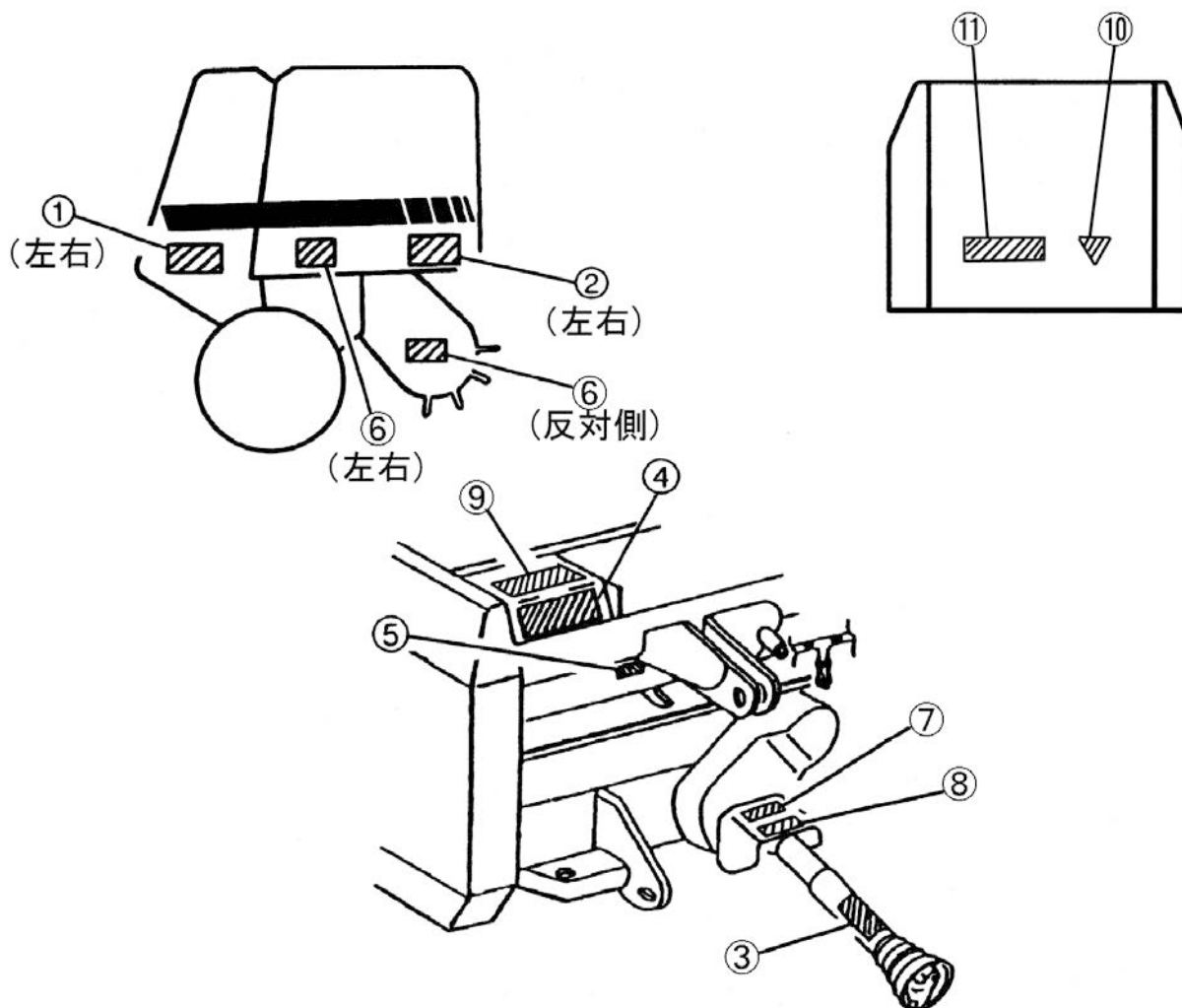
- トラクタの灯火器類が視認可能であれば、灯火器類を取付ける必要はありません。
灯火器類を取付けてない作業機は、次図のようにトラクタの灯火器類が見えるように作業機の高さを調整してください。





安全に作業するために

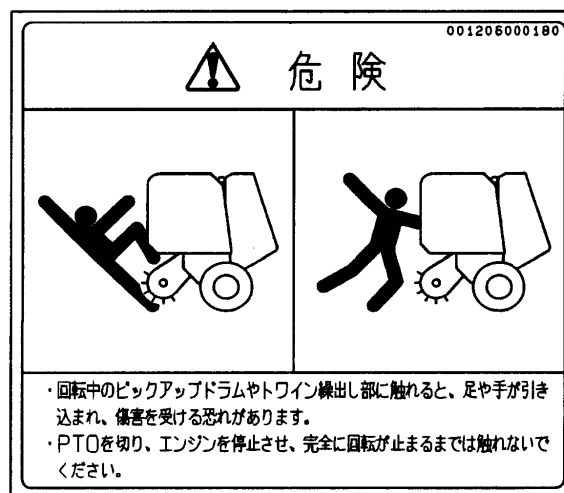
6. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001206001350



②部品コード 001206000180





安全に作業するために

③部品コード 001206000110

001206000110	
	警 告
	回転部に接触するとケガをするおそれがありますので下記を厳守して下さい。 (1) 運転する時は、必ずトラクタのエンジンを止めてから行い、また接続は確実にして下さい。 (2) ジョイントカバーは必ず付け、チェーンで固定してご使用下さい。 (3) 動力伝達中は、ユニバーサルジョイントに近づいたり触れたりしないで下さい。 (4) このユニバーサルジョイントは、指定の作業範囲以外の動力伝達用には使用しないで下さい。
取 扱 説 明	
グリスアップ 右図のところに指定時間 (h) 毎グリスアップして下さい。	
ジョイントカバーの取外し方 (1) 調整ボルトを90°回す。 (2) 押しつけながら調整ボルトを持ち上げる。 (3) 調整ボルトを取り除く。 (4) カバーを外す。 (5) 張持リングを広げながら持ち上げる。 (6) カバーを分解する。 取り付けは上記の逆順で行って下さい。	

⑥部品コード 001206000800

001206000800	
	注 意
	・カバーを取り外す時は必ずエンジンを止めてからにしてください。 ・はずしたまま運転するとケガをするおそれがあります。

④部品コード 001204501330

001204501330	
	注 意
1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席を離れるときは、必ず	エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。 7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。 8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 保安基準を満たさない限り公道走行はできません。

⑦部品コード 001206000610

001206000610	
	警 告
	巻き込まれてケガをする恐れがあるので回転中は近づかないでください。カバーは、常に装着してください。

⑤部品コード 001206000561

001206000561	
	注 意
	・鋭利な刃物のため、点検・取換え時は十分注意してください。 ・注意を怠ると傷害発生の可能性があります。



安全に作業するために

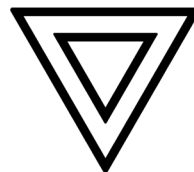
⑧部品コード 001204400070

⑩部品コード 001206002260

使用回転速度

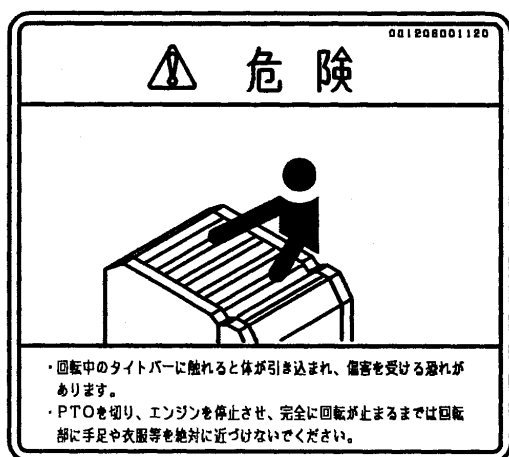
540 $\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ 以下

001204400070



⑨部品コード 001206001120

⑪部品コード 001205200050



運行速度15km/h以下

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ、麦ワラ、牧草の拾い上げ梱包作業にご使用ください。

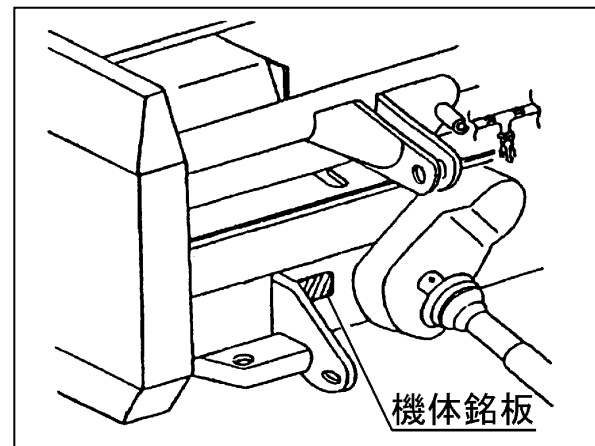
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A（農協）、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

（機体銘板貼付け位置図）



【連絡していただきたい内容】

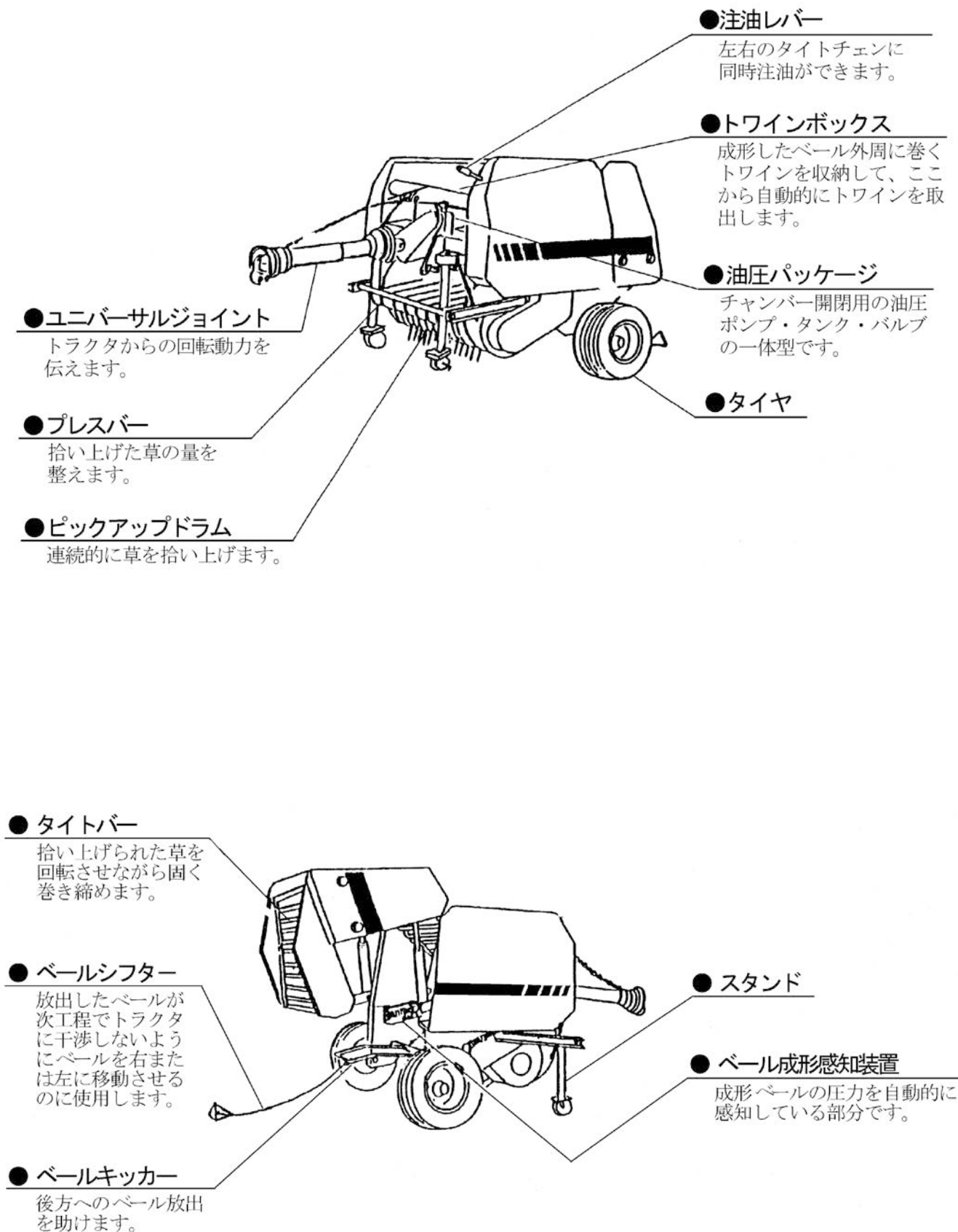
- 品名と型式
- 機体 No.（S E R－N o）
- ご使用状況は？
（どんな条件でどんな作業をしていたときに）
- どれくらい使用されましたか？
（約〇〇アール、または約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	ミニロールベアラ
型 式	R B－5 1 1 D X
機 体 No. (SER－No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : () _____

各部の名称とはたらき



トラクタへの装着

！ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
- 3点リンケージへの装着はリンケージの動きに十分注意し、二人以上の共同作業ではお互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを停止し、PTOを切ってから確実に接続してください。

以上のことを守らないと傷害発生のおそれがあります。

1. 3点リンケージへの装着のしかた

◆3点リンケージへの装着順序

左のロワーリンク、右のロワーリンク、トップリンクの順序で取り付けてください。

◆トップリンク連結穴位置は

トラクタ側のトップリンク連結位置は、トップリンク角度が最もつくように最下部に取り付けてください。

◆トップリンクの長さ調整

トップリンクの長さにより草などを拾い上げるピックアップタインの地上高さを調整します。

標準的なタインの地上高さは2～4cmです。(詳細は作業方法の項参照)

◆チェックチェーンで横振れ調整

運搬時および作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心にロワーリンクが左右に2～3cm程度の振れになるよう調整してください。

◆スタンドを外し上から取付けてください

3点リンケージの取り付け・調整が終わればスタンドをはずし、上方よりフレームに取り付けてください。

注意

本機を急激に下降させないでください。スタンドや機体が破損するおそれがあります。

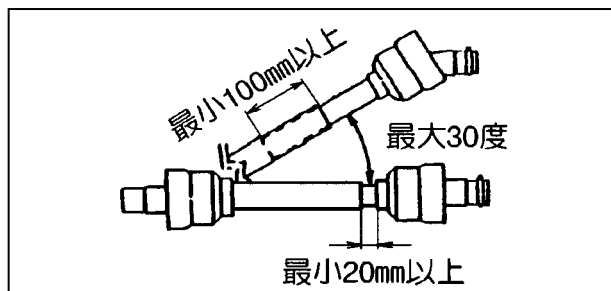
2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ユニバーサルジョイントの取り付け順序

本機入力軸に取り付けてから、トラクタPTO軸に確実に取り付けてください。

◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは、3点リンケージによる本機の上昇・下降により変化します。先にジョイント長さを確認し、長すぎるときは、次図の寸法が確保できるように切断してください。



注意

また、作業時のジョイント角度は最大30度を超えないように調整してください。30度を超えると、ジョイント破損の原因になります。

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。

トラクタへの装着

3. オートヒッチへの装着のしかた

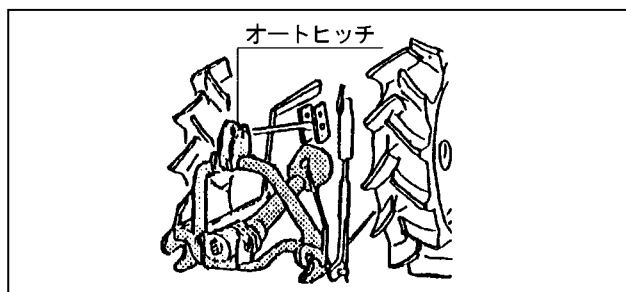
◆装着できるオートヒッチは

各トラクタメーカー等で準備されている日農工標準オートヒッチ規格 O: I 兼用型のオートヒッチに限り連結ができます。

◆オートヒッチはトラクタ側に取付けます

次図に示すように、トラクタの 3 点リンケージにオートヒッチを取り付けます。

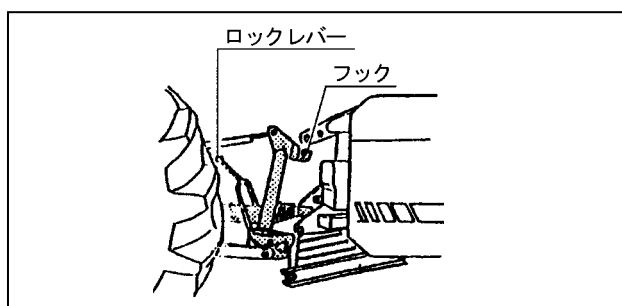
オートヒッチに動力伝達用のユニバーサルジョイントが装備されているため、オートヒッチを使用すると、3 点リンケージの他に PTO 動力も同時に接続できます。



◆本機との着脱は簡単にできます

トラクタの 3 点リンケージにオートヒッチを取り付けて、次図のようにオートヒッチのフックで、本機側のトップリンクピンを狙いすくい上げると、ローアリンク部とユニバーサルジョイント部が連結されます。

連結後は、ロックレバーで必ずロックしてください。



4. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリー

から取り出します

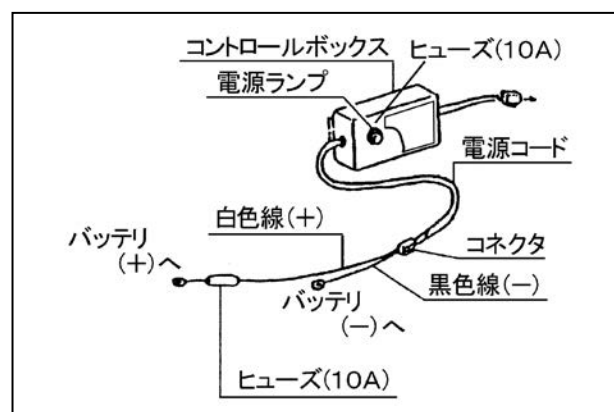
コントロールボックスの電源は、トラクタのバッテリーより取り出します。

◆接続できるバッテリーの

電圧は12Vです

24Vのバッテリーに接続しないでください。

間違って接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。



◆(+)、(-)の接続を間違えないように

白色線はバッテリーの(+)へ接続

黒色線はバッテリーの(-)へ接続

注意

(+)、(-)の接続を間違えると、コントロールボックスの電源ランプは点灯しません。

警告

接続の順序は、(+)側から行ってください。また、取り外すときは、(-)側から行ってください。

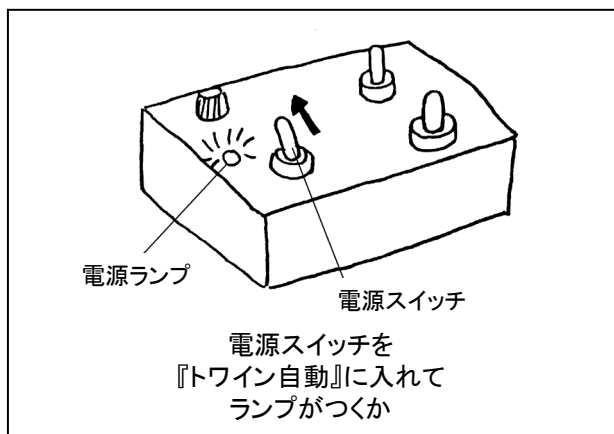
逆にすると、火花が飛び危険です。

トラクタへの装着

◆電源スイッチを入れる

電源スイッチを『トワイン自動』の方に入れてください。

電源ランプがつかないときは、コントロールボックス内のヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの(+)と(-)が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。



◆作業終了後は取り外して屋内に保管

作業終了後は、電源コード側のコネクタより切り離し、水等がかからない屋内に保管してください。

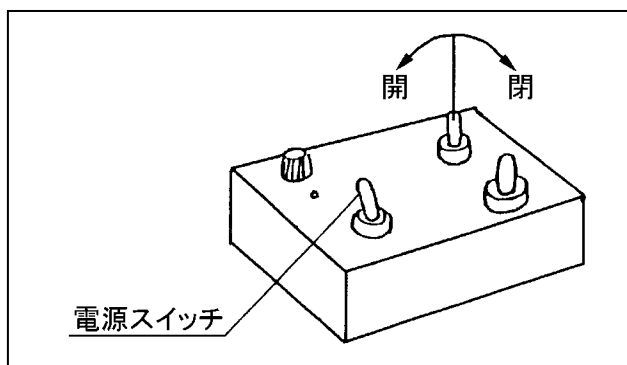
運転に必要な装置の取扱い

1. 油圧装置の取扱い

◆チャンバー開・閉の油圧装置です
本機に装備している油圧装置は、チャンバー開閉用の油圧装置で、油圧ポンプ・タンク・バルブ一体型の油圧パッケージを装備しています。

◆PTOが回転している間は作動します
油圧パッケージは、PTOの回転が止まっていると油圧力は発生しません。

◆チャンバーの開閉操作のしかた
電源スイッチをトワイン自動の方に入れて、PTOを回転させます。
開閉スイッチを奥に倒すとチャンバーが開き、手前に倒すとチャンバーは閉じます。



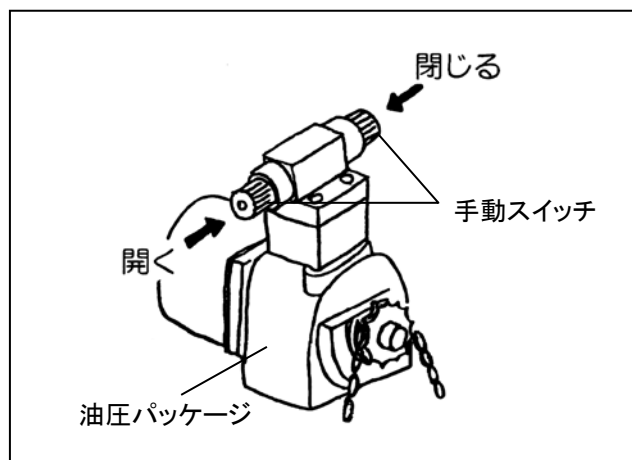
◆チャンバーを開けたままで作業するときは
点検・整備等でチャンバーを開けたままで作業する時は、チャンバー降下防止の支え等の安全処理をとってから作業してください。

！ 注意

チャンバー降下防止処理を必ず行ってください。これを怠ると重大な障害事故につながるおそれがあります。

◆電装がトラブルを起こした場合

必ず電源スイッチを切ってからPTOをゆっくり回転させ、先の尖ったもので手動スイッチを押してください。



注意

本機はパイロットチェック弁を装備していますので、閉じる際にもPTOを回転させて動作させる必要があります。

！ 警告

この作業を行う場合は、必ず二人で合図をしながら、慎重に行ってください。

これを怠ると傷害が発生するおそれがあります。

2. コントロールボックスの取扱い

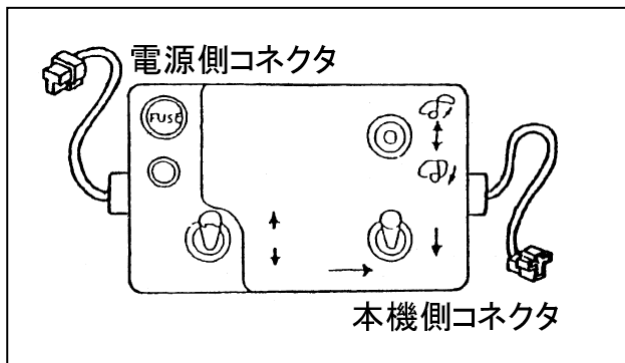
◆コントロールボックスの取付け

コントロールボックスの裏側に永久磁石を装着しています。操作のしやすいように、トラクタの運転席右側の金属製フェンダー等に吸着させて取り付けてください。

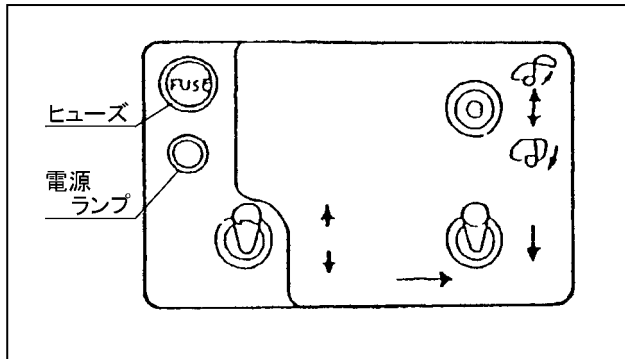
運転に必要な装置の取扱い

◆電気関係の接続

- ①トラクタのバッテリーより取り出した電源側コネクタにコントロールボックスを接続して、電源ランプが点灯していることを確認してください。
- ②次に本機側ハーネス長さは、3点リンケージによる上昇・下降の動きに対応できるよう、余裕を保った状態で本機側コネクタに接続してください。



◆コントロールボックスの 取扱いのしかた



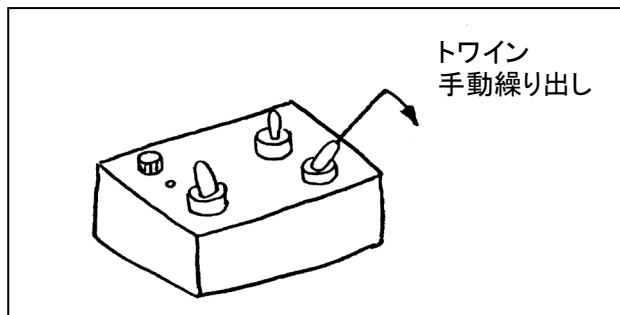
◆自動トワイン繰り出しの時は

操作不要です

成形するベールの圧力が、設定された圧力になるとブザーが鳴り、自動的にトワインを繰り出すので、コントロールボックスの操作は不要です。

◆手動でトワインを繰り出すとき

拾い上げ・成形作業の最終時、草量不足で設定圧力にならないままでトワインを巻き付けるときや、設定圧力以下でトワインを巻き放出する時は、コントロールボックスのトワイン繰り出しボタンを押すとブザーが鳴り、同時にトワインが繰り出されます。



◆作業前にボタンを押して作動確認

作業前には、トワインの繰り出しが正常に作動するかを、ボタンを押してから確認してください。

注 意

電源ランプが点灯しないまま作業を行うと、トワインによる結束ができないだけでなく、機械を破損させる原因となりますので、必ず点灯していることを確認してから作業してください。

◆作業終了時の収納

作業終了後は、電源コード側コネクタより切り離し、屋内で水濡れのないように保管してください。

運転に必要な装置の取扱い

3. トワインの取付けのしかた

◆トワインボックスにセット

トワイン束は横に倒した状態で、本機に向かって右側に最初のトワインの先が出るようにセットしてください。

◆トワインテンショナーに通す

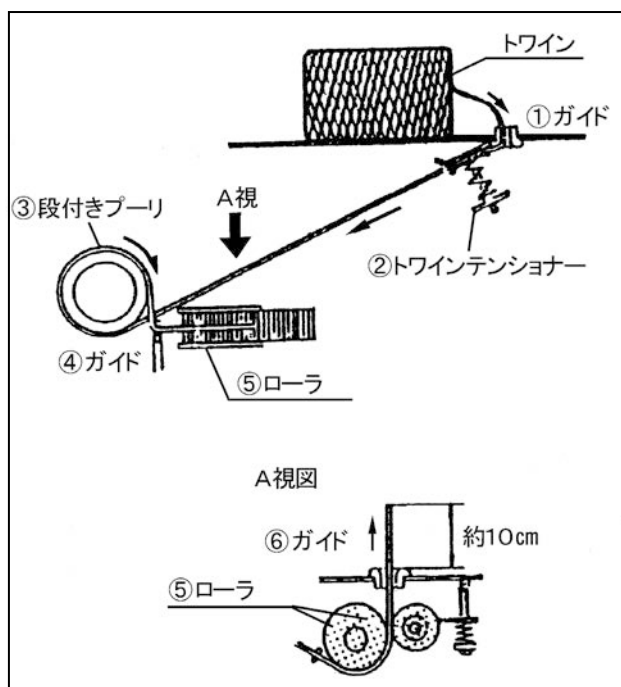
次図に示すように、①ガイドを經由し、②トワインテンショナーに通してください。

◆段付きプーリに巻き付け

続いて、③段付きプーリに反時計方向に2～3回巻き付けてください。

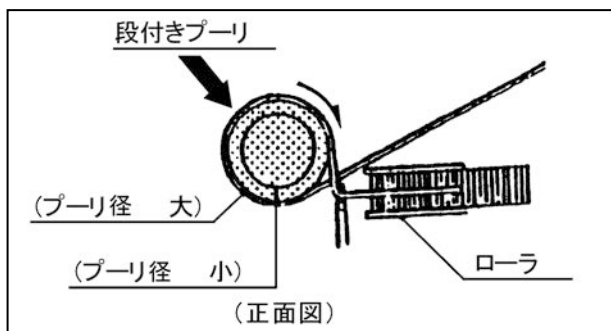
◆トワイン繰り出しローラに通します

③段付きプーリ巻き付け後、④ガイドに通し、⑤ローラの間からA視図の⑥ガイドより、約10cm程度トワインが出るようにセットしてください。



4. トワイン巻き付けピッチ調整のしかた

成形したベール外周に巻き付けるピッチの調整は、段付きプーリの径によって行います。



段付きプーリ径	大	小
巻き付けピッチ (mm)	(狭い) 110	(広い) 150
成形する草の長さ	短い草	長い草

5. トワイン案内金具の位置確認

◆トワイン案内金具の作用

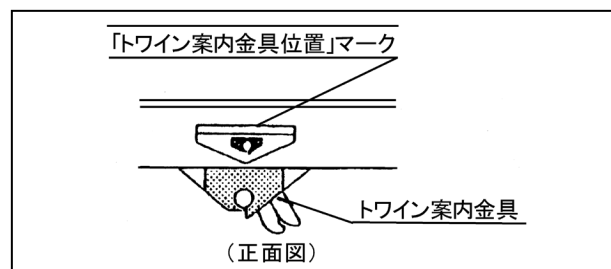
ベール状に圧縮成形された外周に、トワインを巻き付けるためにトワインが繰り出し装置より繰り出され、ベール外周に巻き付き、引っ張られているトワインを左から右に案内し、最後にナイフで切断するまでの案内金具です。

◆トワイン案内金具スタート位置合わせ

作業前に必ず、次図のようにトワイン案内金具を段付きプーリを手で回転させてスタート位置マークに合わせてください。

注意

位置合わせをしないと、トワインの無駄巻きと巻き付けに時間がかかります。

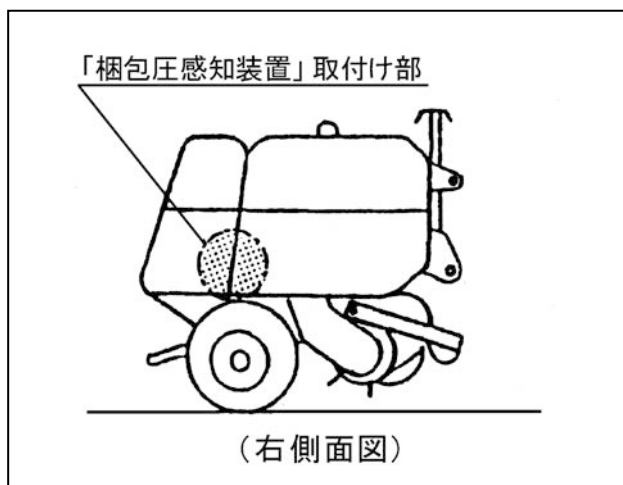


運転に必要な装置の取扱い

6. 梱包圧感知装置の取扱い

◆梱包圧感知装置の装置位置

次図に示すように進行方向右側のサイドカバー内に装備しています。



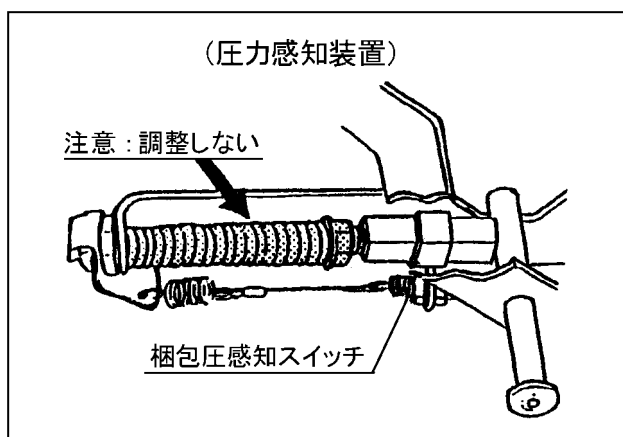
◆梱包圧感知装置の作用

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にブザーを鳴らし、トワインの自動繰り出しに連動します。

感知圧力は設定済みですので、調整しないでください。

注意

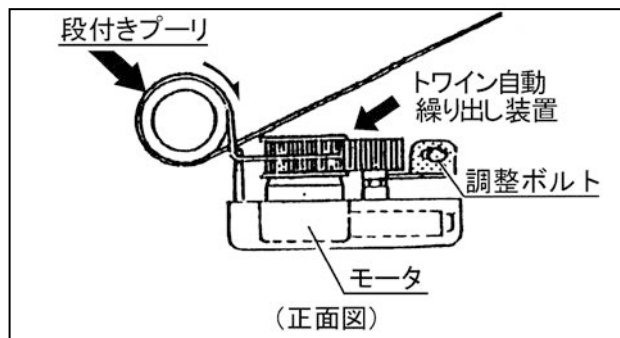
調整すると異常に圧力が高くなり、機械破損の原因となったり、十分なベール成形ができなくなりますので、絶対に調整しないでください。



7. トワイン自動繰り出し装置

◆トワイン自動繰り出し装置の作用

設定した圧力を、梱包圧感知装置で感知すると、ブザーが鳴りトワイン繰り出し装置のモータが作動して、トワインが自動的に繰り出されます。

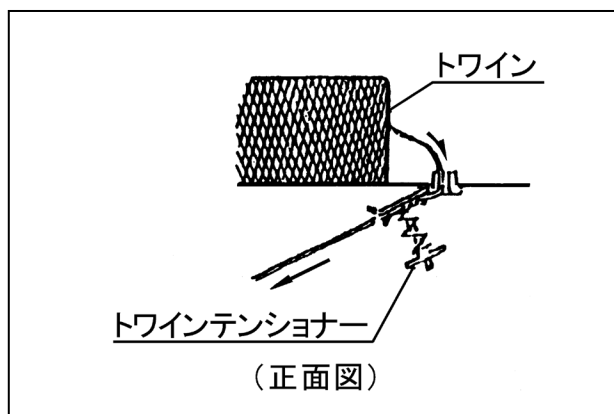


◆トワイン押え圧力調整

トワインの材質により、繰り出しローラの圧力調整を必要とする場合があります。ローラ部分でトワインが滑るときは、調整ボルトを締め込んでください。逆に回転負荷が大きいときは、緩めてください。

注意

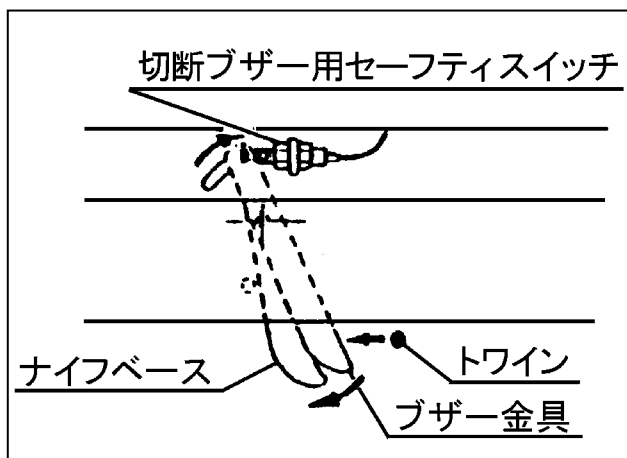
繰り出しローラ部の滑りは、ローラの圧力以外に、次図のトワインテンショナーの調整にも関連しますので、両方の調整を必要とする場合があります。



運転に必要な装置の取扱い

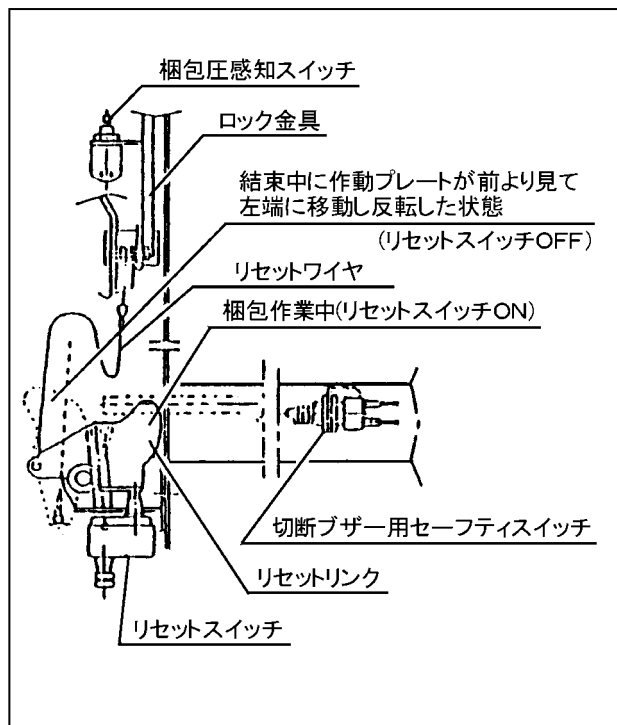
8. トワイン切断感知装置

トワインが切断されると、切断ブザー用セーフティスイッチが作動し、ブザーで運転者にお知らせします。



◆電気関係のリセット

本機には、梱包圧感知とトワイン切断感知のスイッチを装備しております。これらのスイッチは、次図に示すように結束装置の動きと、チャンバーの開閉によりリセットするようになっています。



◆作業前にはチャンバーを

開閉してください

リセットスイッチのリセット(初期状態)と動力関係や油圧関係の確認も同時にできます。

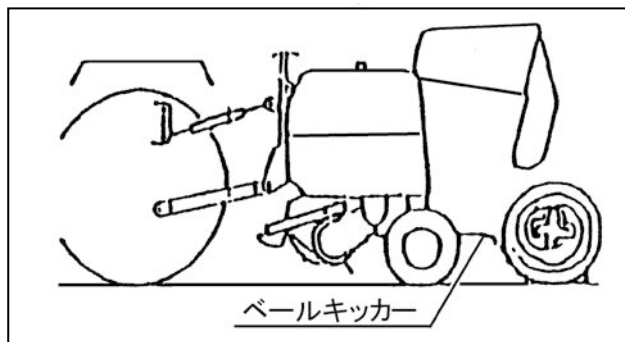
注意

トワイン案内金具がスタート位置にあるかを確認してください。前より見て左端にある場合はリセットできません。必ず、スタート位置に合わせてからチャンバー開閉しリセットしてください。

9. ベールキッカーの取扱い

◆ベールキッカーの作用

梱包したベールを後方に自動放出する装置です。



◆ベール重量が重く転がり出ないときは

重量が極端に重く、ベールキッカーの上に乗って転がり出ない場合は、チャンバーが閉まりません。このときは、本機を少し前進させるとベールがキッカーからはずれ、チャンバーが閉まります。

⚠ 警告

キッカーの上に乗ったベールを取り出す時は、必ずチャンバー降下防止処理をしてから行ってください。

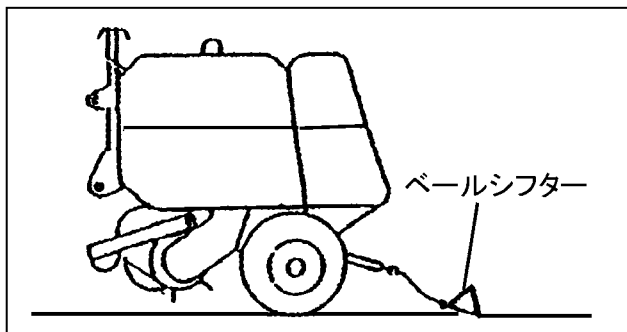
ベールを動かすと急にチャンバーが閉まり、傷害発生の危険があります。

運転に必要な装置の取扱い

10. ベールシフターの取扱い

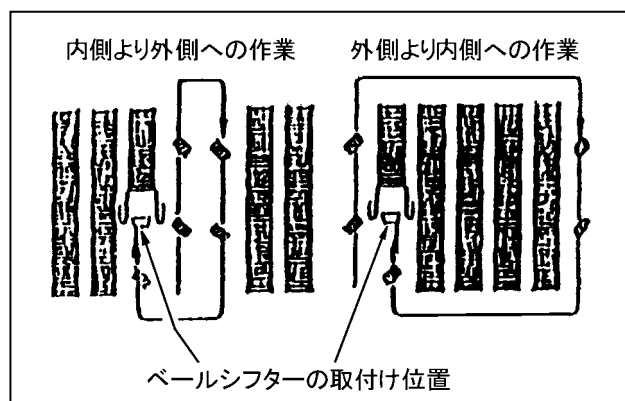
◆ベールシフターの作用

放出したベールを、次工程の作業でトラックや本機の走行に干渉しないように移動させる装置です。



◆拾い上げ作業方法と取付け位置

拾い上げ作業方法により、ベールシフターの取り付け位置が変わります。作業方法と取り付け位置は次図に従ってください。



注意

ほ場内での拾い上げ作業方法は、変更しないでください。変更すると、前工程のベールと干渉してベールの変形や作業能率を低下させます。

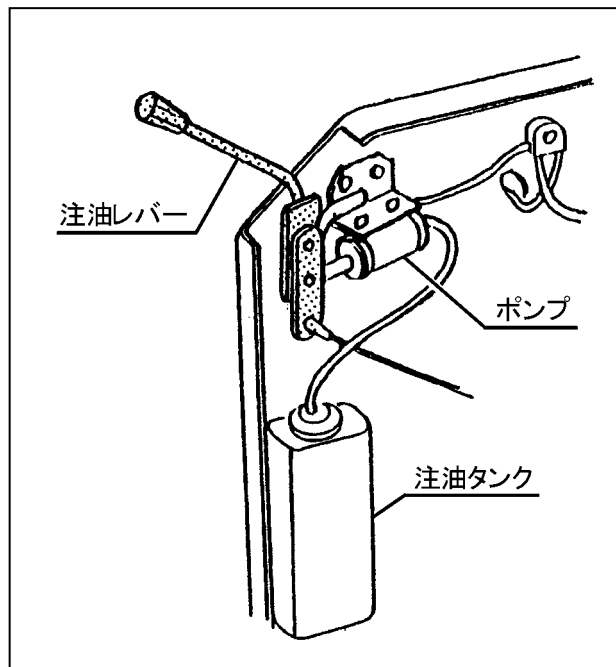
◆移動時は

移動時や道路走行時には、ベールシフターをひきずらないよう反対側の穴に掛けてください。

11. タイトチェン注油装置の取扱い

◆作業前に必ず注油してください。

作業前にはPTOを回転させながら注油レバーを4～5回引いて注油してください。



◆作業中は自動注油され残量に注意

作業中はチャンバーの開閉ごとに自動的に注油されます。

注油タンク内のオイル残量には、特に注意して、少なくなればVG32オイル(最大量 1.3L)を補給してください。

注意

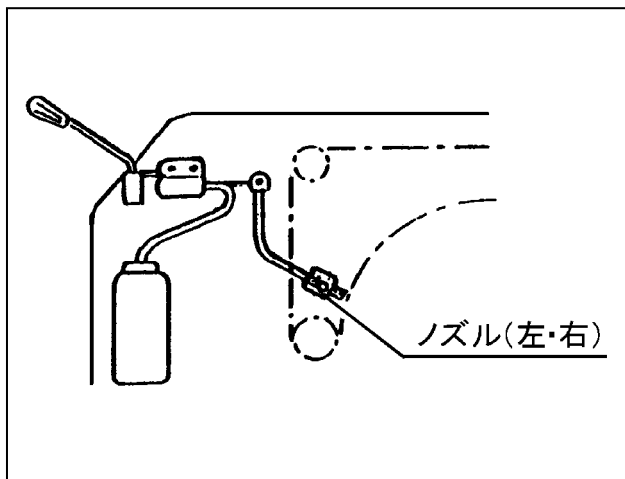
注油タンクのオイル不足によりタイトチェンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増しチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

運転に必要な装置の取扱い

◆定期的にノズルの清掃を

行ってください

注油ノズルには草やワラが付着しやすい、そのまま使用すると、チェーンへ注油されないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着した草やワラを清掃してください。



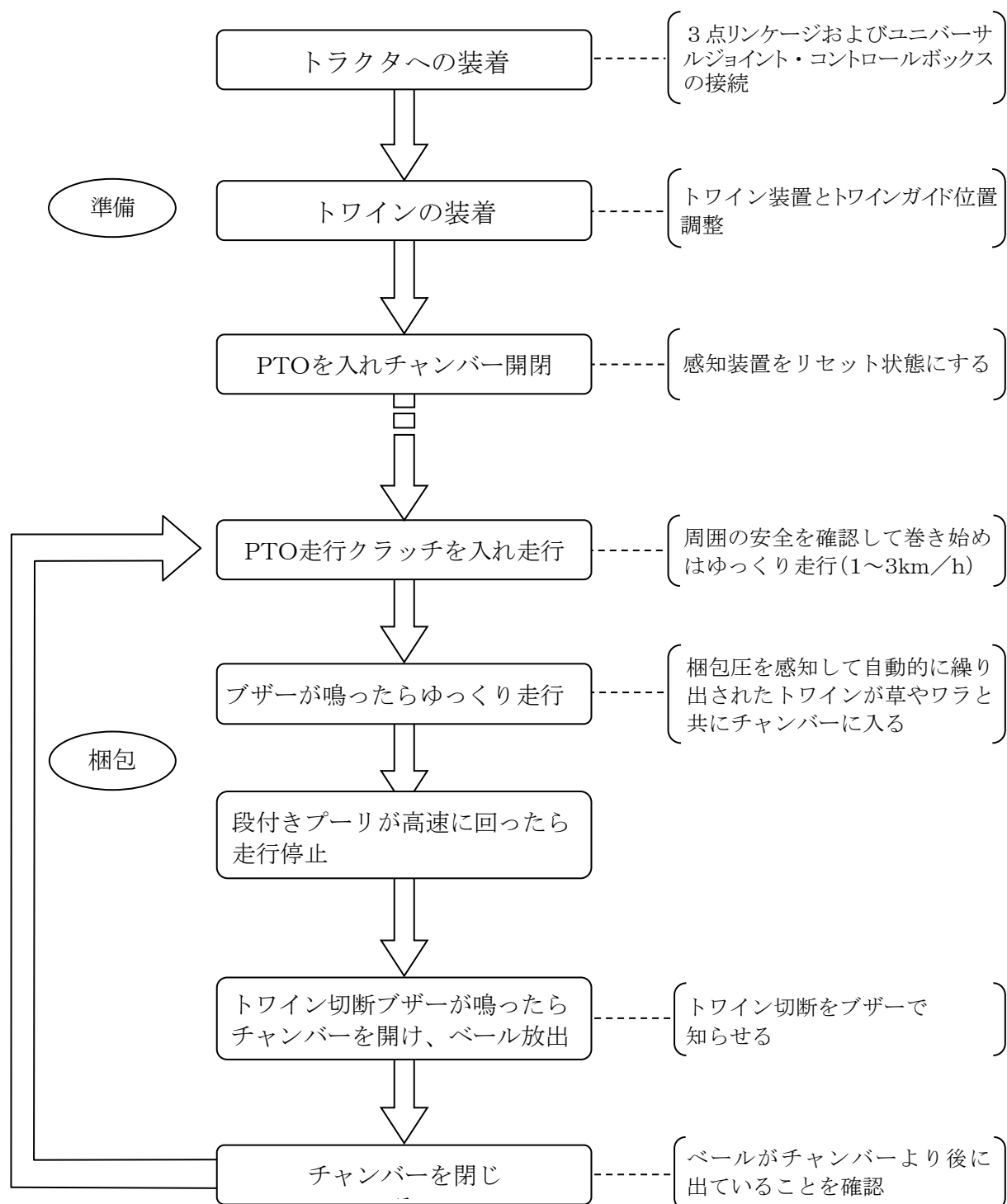
⚠ 警告

点検・清掃は必ずPTOを止めてから行ってください。

これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

作業方法

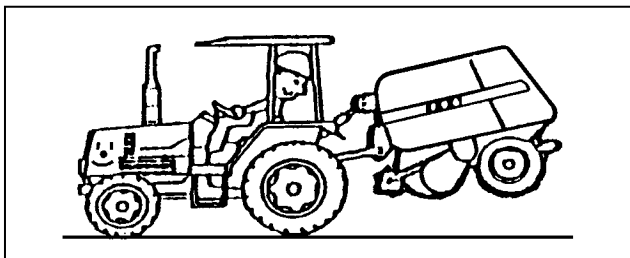
1. 作業手順と要点



作業方法

2. 移動・急旋回のときは

移動するとき、ほ場で急旋回するときは、必ず本機を3点リンケージで吊り上げてください。



注意

本機を3点リンケージで吊り上げずに急旋回すると、感知スイッチが異常作動し結束しない場合があります、故障の原因となります。

特に片ブレーキによる急旋回は絶対に行わないでください。

警告

- ①本機を装着しての運転は、道路および周りの条件に適した速度で行ってください。絶対に急発進・急ブレーキ・急ハンドルは行わないでください。
- ②カーブを曲がる時は、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

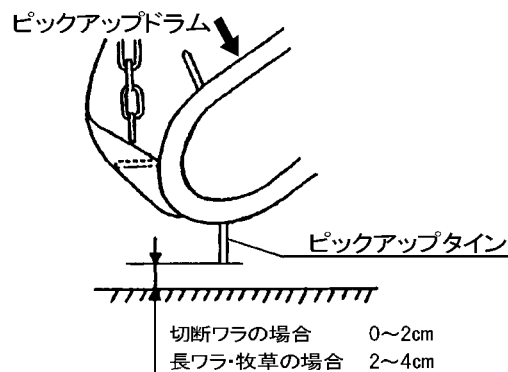
3. ピックアップドラムの高さ調整

◆拾い上げ高さ調整

ピックアップドラムの拾い上げ高さ調整は、トラクタのトップリンクの長さで行います。

◆拾い上げる作物の長さにより異なります

切断ワラ等の短いものを拾い上げる時は、タイヤが地面に接する程度に、長ワラや長い牧草を拾い上げる時は、タイヤが浮き気味になる程度に調整してください。

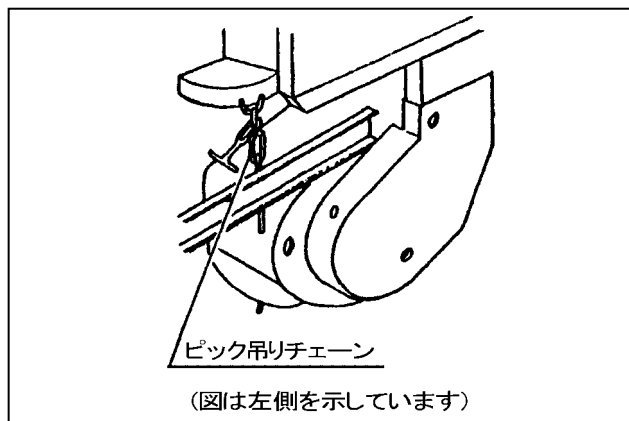


◆あぜ越えなどのとき

あぜ越えなどでピックアップドラムを上げるときは、左右のピック吊りチェーンで左右とも同じ高さになるように吊り上げてください。

◆ピックアップドラムの上下

ピックアップドラムを上下させるときは、次図のようにリベットピンとアールピンでピックアップドラムとプレスバーをつなぎ、プレスバーを持ち上げると、比較的楽にピックアップドラムが持ち上がります。



警告

- ①ピック吊りチェーンで高さを調整するときは、平坦な所で本機を地面に降ろしPTOを止め、エンジンを停止してから行ってください。
- ②あぜ越えは十分な安全を確認し、あぜに対して直角に最低速で走行してください。

作業方法

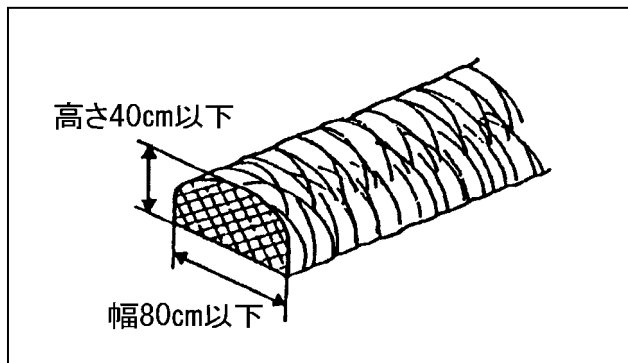
4. 牧草の拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

◆ウインドローの大きさ

ウインドローの大きさは、次図に示す大きさで、できるだけ均一なウインドローを作ってください。



注意

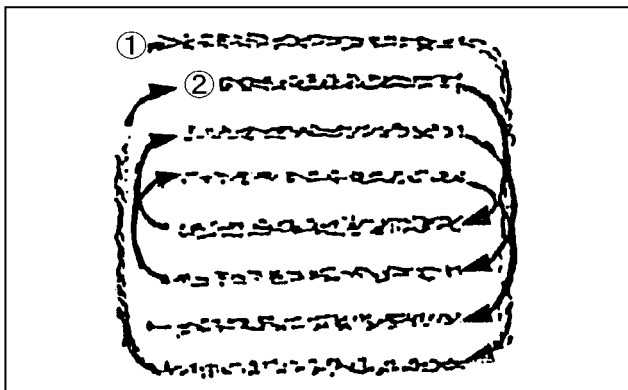
ウインドローが大きすぎると、詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。

上図の寸法を守ったウインドローを作ってから作業してください。

◆ウインドローの梱包作業

走行はウインドローの中心を走行し、大きく旋回してください。(次図参照)

急旋回するときは、必ず3点リンケージで本機を上げ旋回してください。



5. 切断ワラの拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包と同様に、ウインドローを作って作業すると、能率が上がり拾い残しロスも少なくなります。

(ウインドローの大きさおよび梱包作業は、前の「4. 牧草の拾い上げ方法」を参考にしてください。)

6. 長ワラの拾い上げ方法

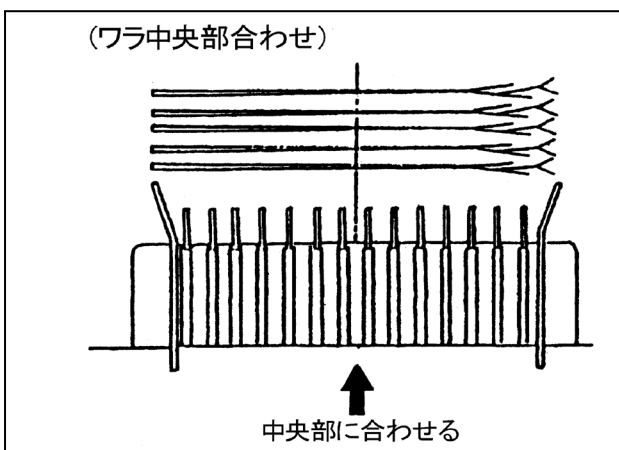
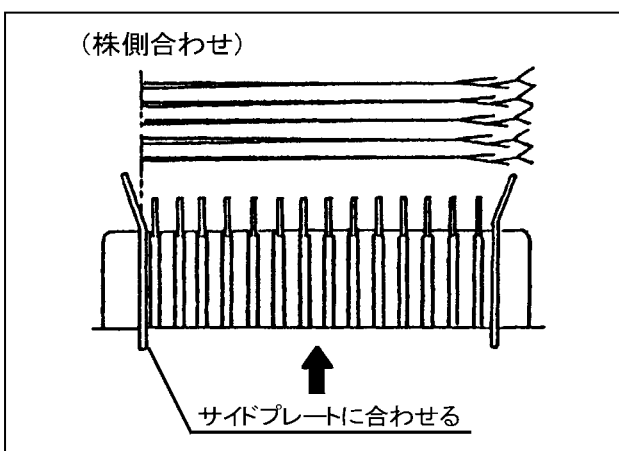
コンバインの刈取条数により、拾い上げ作業のポイントが異なります。

次のポイントを守って作業してください。

◆2～4条刈コンバインの長ワラ

たれ流しのときは

長ワラの株側をサイドプレートに合わせて走行するか、長ワラの中央部を中心に走行してください。



作業方法

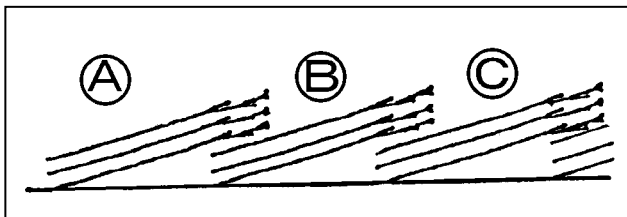
注意

穂先をサイドプレートに合わすと、詰まりの原因となります。

◆2条刈りコンバインの長ワラ

たれ流しのときは

刈り取り後のワラの重量は非常に重くなっています。次図A, B, Cの順序で拾い上げてください。



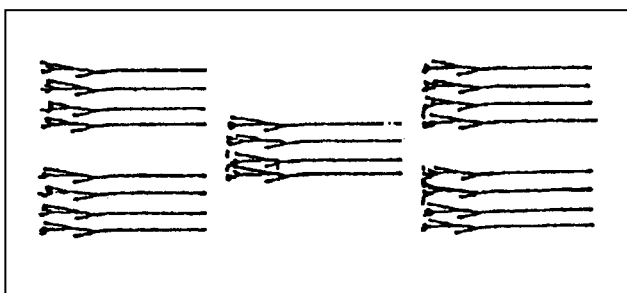
注意

A, Bを同時に拾い上げると、詰まりの原因となります。

また、ワラの長さが80cm以上のときは、AとBの重なりが多くなるため、Bのワラを引きずり込みます。これが原因で詰まりが発生しますので、この場合にはウインドローを作ってから拾い上げてください。

◆長ワラのドロパー落としのときは

この場合は、必ずウインドローを作ってから拾い上げてください。



7. PTOの回転速度

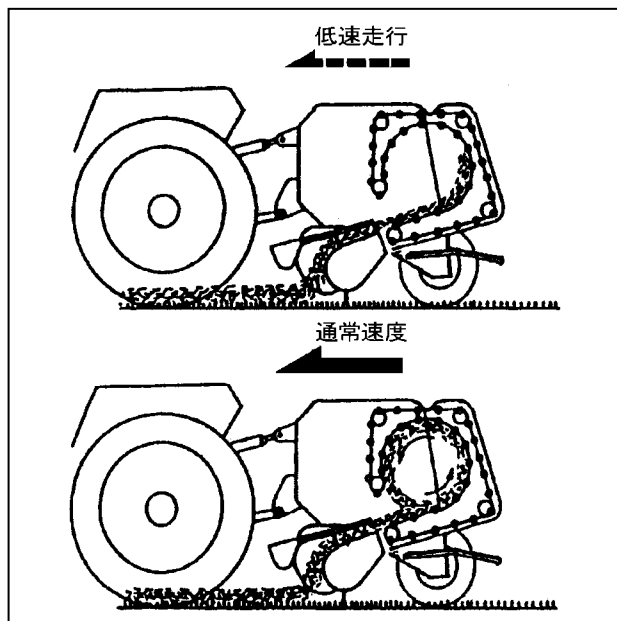
この機械で作業するときのPTO回転速度は540rpmです。

これ以外の回転数での作業は故障の原因となりますので、絶対にしないでください。

8. 梱包作業方法のまとめ

◆ベールが回転するまでの低速走行

拾い上げた作物が、チャンバー内で回転するまでは、低速(1~3km/h)で走行し、ベールが回転すると拾い上げる作物に合わせて3~5km/hで走行してください。また、拾い上げる作物の水分が多いときは通常より速度を下げても作業してください。

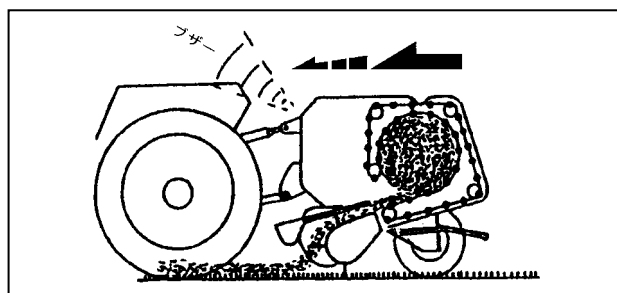


注意

始めから速度を速くすると、詰まりの原因となります。

◆設定圧になるとブザーが鳴り

トワインが自動的に繰り出されます
ベールの圧力が設定圧になると、ブザーが鳴りトワインが自動的に繰り出されます。ブザーが鳴ったら、速度を下げても走行してください。



作業方法

注意

自動繰り出しされるトワインは、拾い上げた作物と共に、チャンバー内に送り込まれるようにしてください。走行を停止したり、拾い上げ作物がない状態で繰り出すと、チャンバー内に送り込まれず結束ができないばかりか、ピックアップドラムに巻き付くトラブルの原因になります。

◆段付きプーリが

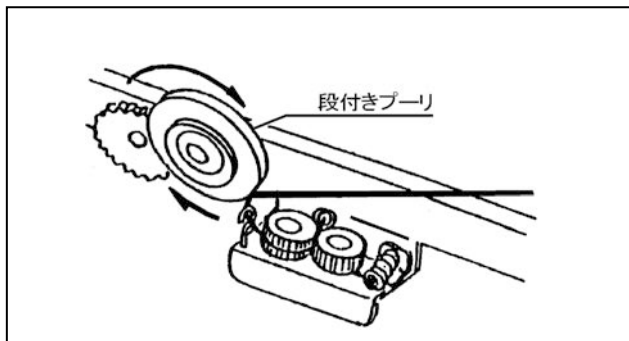
高速に回転したら走行停止

自動繰り出したトワインが、チャンバー内のボールに巻かれると、段付きプーリが高速に回転しますので、走行を停止して結束を待ってください。

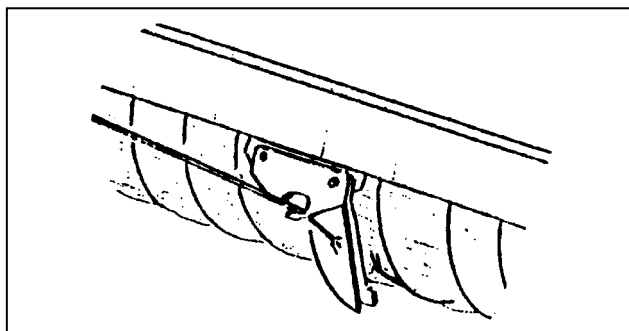
注意

結束時間は巻き付きピッチにより変わります。

〔 ピッチが狭いとき……時間長く
ピッチが広いとき……時間短く 〕

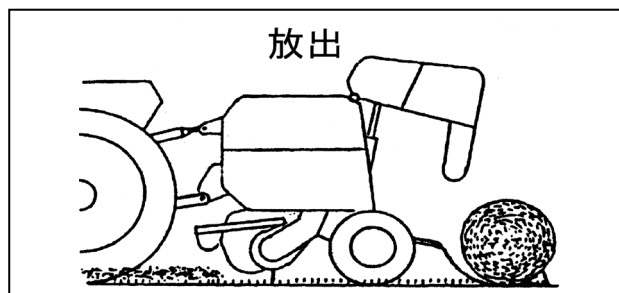


設定の巻き付けピッチによるトワイン結束が終わると、トワインが自動切断されて再びブザーが鳴り、結束完了をお知らせします。



◆チャンバーを開けて梱包ボール放出

コントロールボックスのチャンバー開閉スイッチを操作して、ボールを放出します。



⚠ 危険

後方に、人や動物のいないことを確認してください。また、傾斜地では放出した梱包ボールが転動しないように、平坦な場所で放出してください。

◆放出を確認してチャンバーを閉じる

チャンバー開閉スイッチを操作してチャンバーを閉じ、再び作業を開始してください。

9. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行・急ハンドル禁止

等高線に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落として、急ハンドルを切らないで旋回してください。

⚠ 警告

等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときは、PTOを切りエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	コントロールボックス電源	電源ランプ点灯確認	23	
2	タイトバーのユルミ	増締め	—	
3	ピックアップドラムの草等の巻き付き	草・トワイン巻き付きを除去	—	
4	ピックアップドラムのタイン折れ・曲がり	補充または修理	—	
5	タイトチェンの張り調整	タイトチェンマークに合わせて調整	37	
6	パッケージチェンの張り調整	たわみ量 3mm	37	
7	駆動チェンの張り調整	少し遊びがある程度に張る	37	
8	中間チェンの張り調整	少し遊びがある程度に張る	37	
9	ピックチェンの張り調整	少し遊びがある程度に張る	37	
10	トワイン結束装置のチェン張り調整	少し遊びがある程度に張る	38	
11	予備シェアボルト	不足のときは補充	39	
12	タイヤ	空気圧不足のときは空気補充 (2kg/cm ²)	39	
13	パッケージ給油	油圧オイル補充	40	
14	タイトチェン自動給油	ギヤオイルまたはマシンオイル補充	29	
15	その他各部注油・グリース	各部への給油参照	40	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

注意

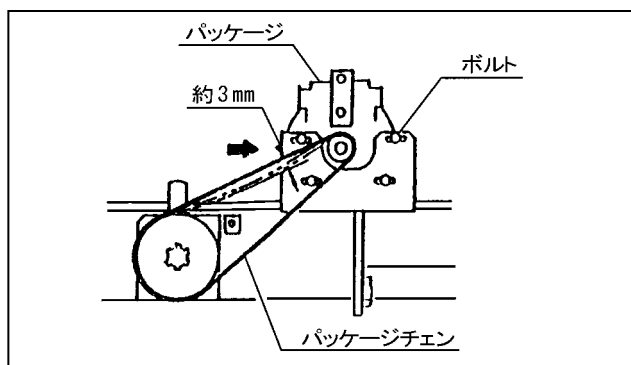
チェーンは特に初期伸びをします。
初めての使用から10時間経過後は、次記
に従って、張り調整を行ってください。

警告

- ①チェーンの張り調整や各部の調整をする
ときは、PTOを切りエンジンを停止
して、回転部が止まってから行って
ください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取り付け
てください。

1. パッケージチェーンの張り調整

指で押したときのたわみ量が、約3mmにな
るように、パッケージ締め付けボルトを緩め、
パッケージを横に押して締め付けてくださ
い。

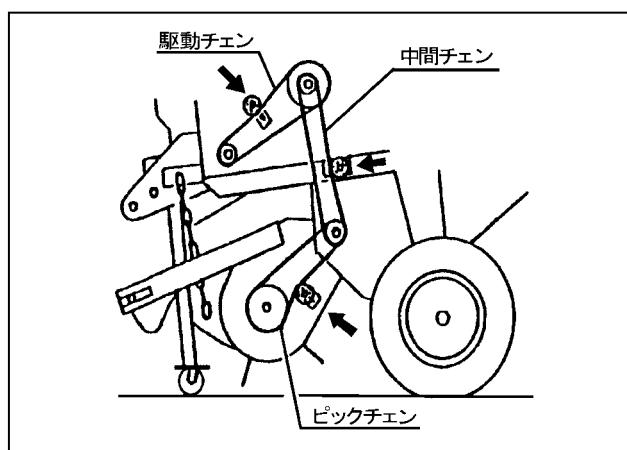


2. 駆動チェーンの張り調整

テンションローラを締め付けているボルトを
少し緩め、上からハンマー等で押し下げ、
少し遊びがある程度にチェーンを張り、ボルト
を締め付けてください。

3. 中間チェーンの張り調整

テンションローラを締め付けているボルトを
少し緩め、横からハンマー等で押し込み、
少し遊びがある程度にチェーンを張り、ボルト
を締め付けてください。



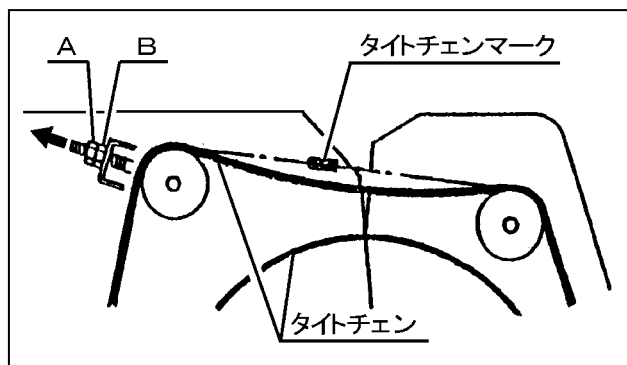
4. ピックチェーンの張り調整

テンションローラを締め付けているボルトを
少し緩め、下からハンマー等で押し上げ、
少し遊びがある程度にチェーンを張り、ボルト
を締め付けてください。

5. タイトチェーンの張り調整

次図に示すように、タイトチェーンの標準張り
位置のマークが付いていますので、タイ
トチェーンが伸び標準位置より下がってきたら、
次の要領で調整してください。

- ①Aのナットを緩める
- ②Bのナットを締め込み、タイトチェーンが
マーク位置になるように調整する



注意

チェーンの張り調整は、チャンバーを閉じた
状態で行ってください。調整後は空回し
をしてタイトチェーンのマークに合っている
かを確認してください。

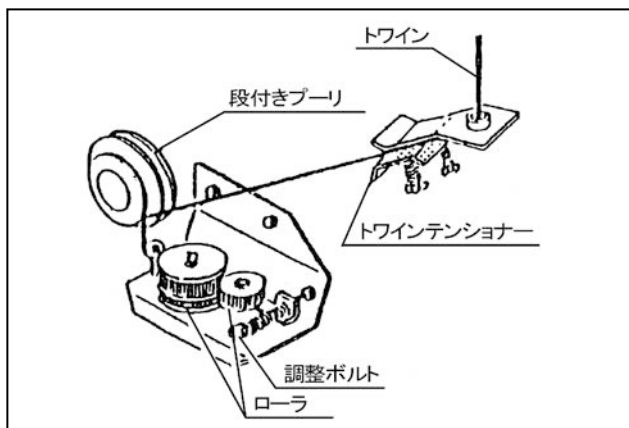
簡単な手入れと処置

6. トワイン繰り出し調整

◆トワインの材質により調整が必要です
トワインはバインダー用のPP、サイザルが使用できますが、材質やメーカーによって多少性質が異なりますので、トワインテンショナーとローラ調整ボルトで適度な加圧力に調整してください。

◆トワインテンショナーのはたらき
段付きプーリ上でトワインがスリップしないようにトワインの種類に合わせて調整するためのものです。

◆繰り出しローラ調整ボルトのはたらき
繰り出しローラにより、トワインがスムーズに繰り出されるように、トワインの種類に合わせて調整するためのものです。



◆トワインが繰り出しローラより出ていかないとき

- ①トワインが、どこかに引っかかっていないか
――→点検修正
- ②トワインテンショナーの押さえが強すぎないか
――→押え力を小さく調整
- ③ローラがトワインを十分に挟んでいるか
――→調整ボルトを締め込み、ローラがトワインを十分に挟み込むようにしてください。

◆トワインが段付きプーリで滑るとき

- ①段付きプーリに2～3回巻き付けているか
――→2～3回時計方向に巻き付ける
- ②トワインテンショナーの押さえが弱い
――→ナットを締め込み、押えを強くする

◆サイザル等のトワインが

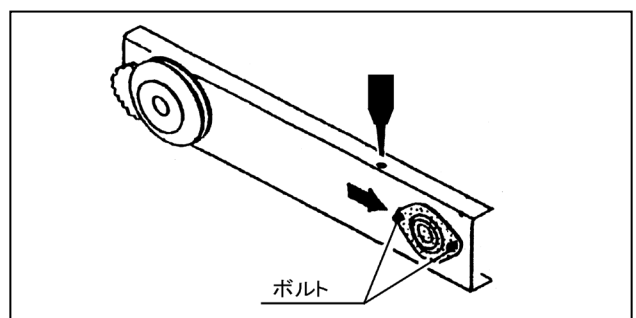
切れすぎるとき

- ①トワインテンショナーの押えが強すぎる
――→ナットを緩めて弱くする
- ②ローラの押えが強すぎる
――→調整ボルトを緩めて弱くする
- ③それでも切れる時
――→引っ張り強度30kg以上のトワインと交換する

7. トワイン結束装置の調整

◆トワイン案内金具がスムーズに移動しないとき

- ①チェンの油切れ
――→注油する
- ②チェンの緩み
――→軸受のボルトを少し緩めて、横に押してボルトを締めてください



簡単な手入れと処置

8. シェアボルトの交換

◆シェアボルト式安全装置と装備

タイトバー駆動軸とピックアップドラム軸の2箇所は、過負荷がかかった時、ボルトがせん断されて本機の損傷を防止します。

◆シェアボルトのサイズは

2箇所とも同じです

ボルトM6×25(8T)ゼンネジ
ナイロんなットM6

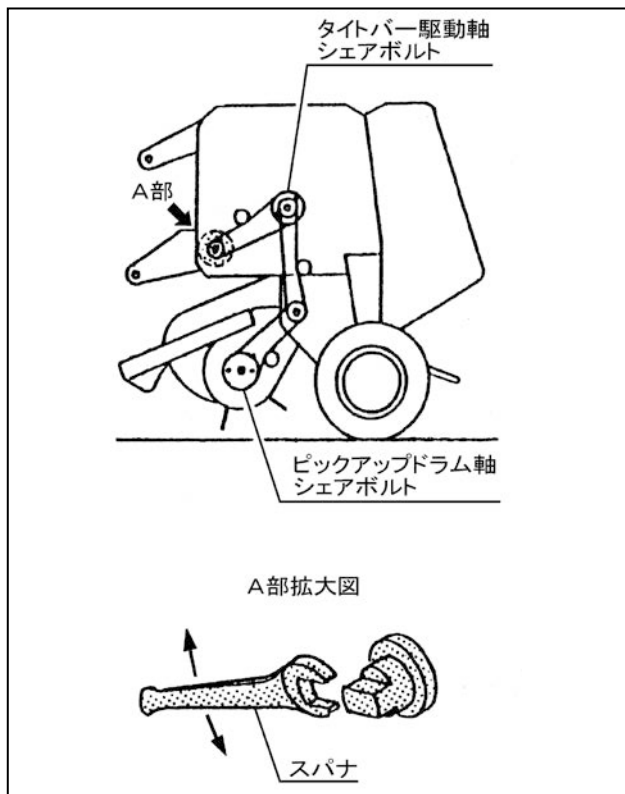
注意

シェアボルトは上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。

◆ボルトがせん断されたら

交換してください

せん断されたボルトを除去して、駆動軸の面加工部にスパナ等で回転させ、ボルト穴に合わせてからシェアボルトとナイロんなットで締め付けてください。



◆草の詰まり等で軸を回転できないとき

ピックアップドラムや、チャンバーに草が詰まり、スパナ等で軸を回転させてもシェアボルトの穴合わせができないときは、タイトバー駆動軸のシェアボルトを外してからPTOを回転させ、チャンバーを開けた状態で、必ずチャンバー降下防止処理をして、チャンバー内の草を除去してからシェアボルトを取り付けてください。

！ 注意

チャンバーを開けて作業する場合は、必ずチャンバー降下防止処理をして、PTOを切り、エンジンを停止してから作業してください。

9. タイヤの点検・修理

◆装着のタイヤと空気圧

本機装着のタイヤは、チューブレスタイヤを装備しています。

空気圧は次の通りです。定期的に空気圧を点検してください。

常圧タイヤ内圧 2.0kg/cm²以下

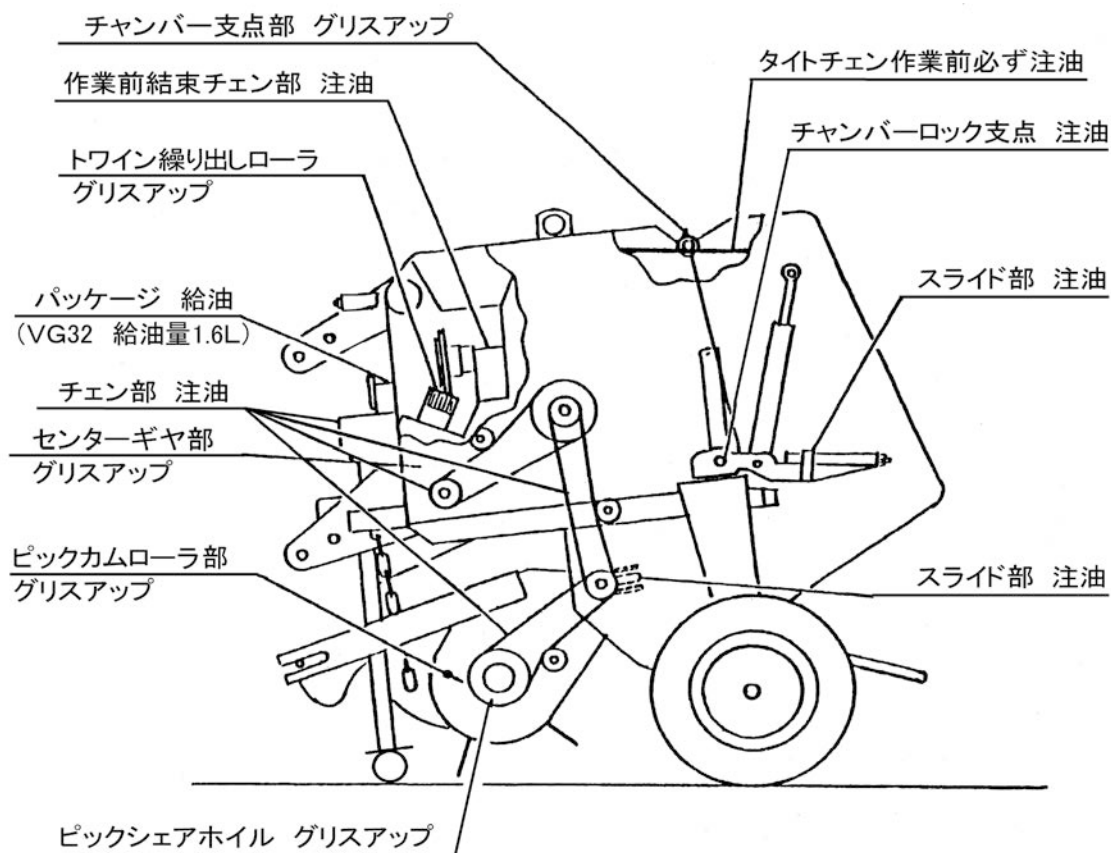
リム組み時内圧 3.0kg/cm²以下

！ 警告

- ①タイヤに関する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず歯止めをしてから行ってください。
- ②タイヤおよびホイールに関する修理は、十分な設備をもつタイヤショップ等の専門店へ依頼してください。

簡単な手入れと処置

10. 各部への給油



注意

各チェン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分注油してください。
また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による過熱が原因となり、
場合によっては火災となるおそれがあります。

11. 長期格納時の手入れ

- 水洗いして付着した泥や埃等を落とし、巻き付いた草等を取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転・しゅう動部やチェン類には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、補修塗料を塗って、錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときは締めてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。

- 格納は平坦な所で保管してください。
- 格納時および駐車時は、キャスターのブレーキをかけてください。
- 清掃時にリヤカバーを外す際は、リヤランプ、後退灯のコネクタを外してください。清掃後リヤカバーを取り付ける際は、ハーネス、コネクタがタイトチェンに近くならないように固定してください。



不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
● 拾い上げ部に草が詰まる	● 集草列が大きすぎる ● 車速が速すぎる ● 作物が濡れている	● 集草列を小さくする ● 車速を落として作業する ● 予乾をする	33 34 —
● ベールが放出されない	● ベールキッカーのバネ調整が不十分	● ベールキッカーのバネの強さを調整する	—
● ベールの左右の径が違う	● 集草列の片側を走行している	● 集草列の中央を走行する	33
● タイトバーおよびピックアップドラムが回転しない	● 駆動軸のシェアボルトが切断している	● シェアボルトを交換する コード No 001185060250 (M6×25 8T全ネジ)	39 43
● ピックアップドラムが回転しない	● ピックアップ軸のシェアボルトが切断している	● シェアボルトを交換する コード No 001185060250 (M6×25 8T全ネジ)	39 43
● タイトバーが異常に振動する	● タイトチェンの油切れ ● タイトチェンの緩み	● チェンに十分注油する ● チェンを張る	29 37
● チャンバーが開閉しない	● ギボシの接触不良 ● 油圧ソレノイドの不調	● ギボシの接触を確認する ● 油圧パッケージの手動スイッチが効かない場合、ソレノイドを交換	— 24
● トワインの案内金具が作動しない	● 段付きプーリ部でトワインが滑っている	● トワインテンショナーのブレーキを強くする ● 巻き数を多くする ● 繰り出しローラの調整ボルトを緩める	38
● トワインが結束途中で切断される	● トワインが途中で詰まっている ● トワインテンショナーのブレーキが強すぎる	● トワインを入れ直す ● ブレーキを弱くする	38
● チャンバー内がいっぱいになってもブザーが鳴らず、繰り出しモータも回らない	● 電源ランプが点灯しない ● トワイン案内金具が所定の位置にない ● リセットワイヤーが切れてリセットリンクが反転したままである ● 梱包圧感知スイッチがこわれている	● ヒューズを確認する(10A) ● コネクタの接触を確認する ● 案内金具を所定の位置(貼付けマークの位置)に置きチャンバーを一度開閉する ● リセットワイヤーを交換しチャンバーを一度開閉する ● 梱包圧感知スイッチを交換する	22 22 26 28 27

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●スタータからトワインが 繰り出されない	●トワインがローラのところで スリップする ●トワインが途中でからんで いる ●繰り出しモータが回転して いない	●繰り出しローラの調整ボルトを 締め込む ●トワインテンショナーを緩める ●トワインを入れ直す ●コネクタの接触を確認する ●繰り出しローラの調整のボルト を緩める	38 38 26 22 27
●案内金具がトワインを 引っかけず通り過ぎて しまう	●草のないところでトワインを 出しながら走行した場合 ●ナイフが切れなくなっている	●草のあるところを走行する ●ナイフの刃を交換する 市販エヌティー大型刃 BL-450 金物店・スーパー・ホームセン ター等で販売しております。 ナイフの穴にボルトを入れ、下の ボルトでナイフの当たりにします (ナイフに注意してください)	35
●トワインがピックに巻き 付く	●草のないところでトワインを 出しながら走行した場合	●草のあるところを走行する	35
●通常走行時ピッピッ という音がする	●不整地等の走行時後、チャ ンバーが瞬間的に動いて 感知し、ピッピッという音が する	●故障ではありません そのままご使用ください	—

付 表

1. 主要諸元

名 称	ミニロールベアラ	
型 式	RB-511DX	
装 着 方 法	3点リンク直装式 (日農工規格標準オートヒッチO: I 兼用取付け可能)	
駆 動 方 法	PTO駆動 (回転速度 540 min ⁻¹ (rpm))	
適 応 ト ラ ク タ	12.5~22.1kW {17~30PS}	
機 体 寸 法	全 長	1360mm
	全 幅	1420mm
	全 高	1200mm
質 量	370kg	
作 業 幅	80cm	
ベ ー ル 寸 法	φ 50×73cm	
ベ ー ル 重 量	15~20kg	
チャンバー開閉	油圧パッケージ内蔵により油圧開閉	
使用可能トワイン	PP・サイザル	
タイヤサイズ	16×6.50-8 4PR	
作 業 速 度	3~5km/h	
作 業 能 率	20~30分/10a	

※この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。

※機体寸法は収納時(スタンド装着時)の数値です。

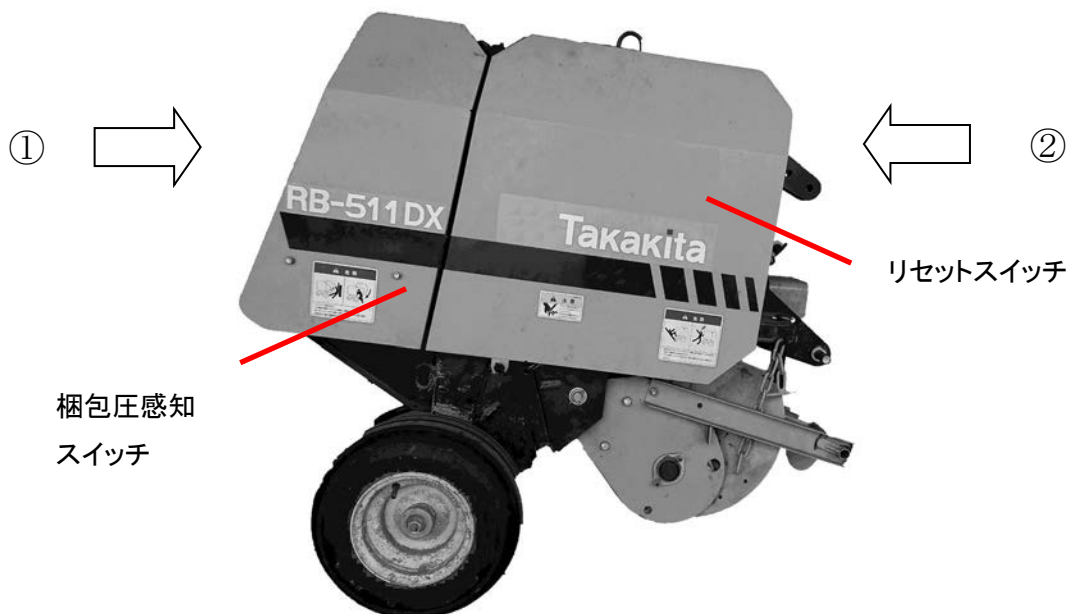
※質量はユニバーサルジョイント装着時の数値です。

2. 主な消耗部品

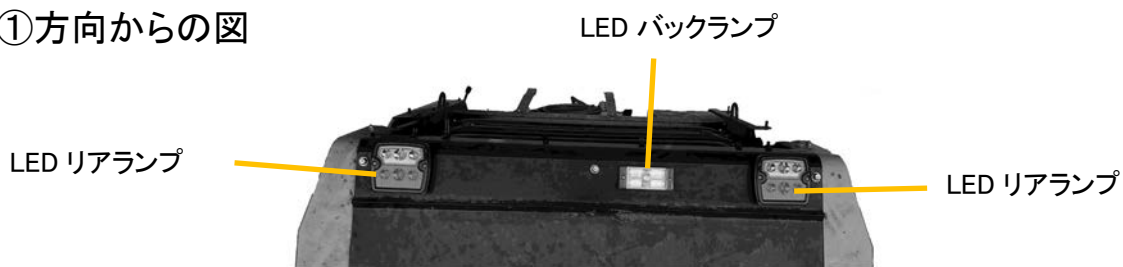
部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
ヒューズ	00900 0100 100	10A
タイン	11659 5173 006	
シェアボルト	01118 5060 250	M6×25 8T 全ネジ
ナイロンナット	02311 4001 060	M6
ナイフ	11661 6172 001	

付 表

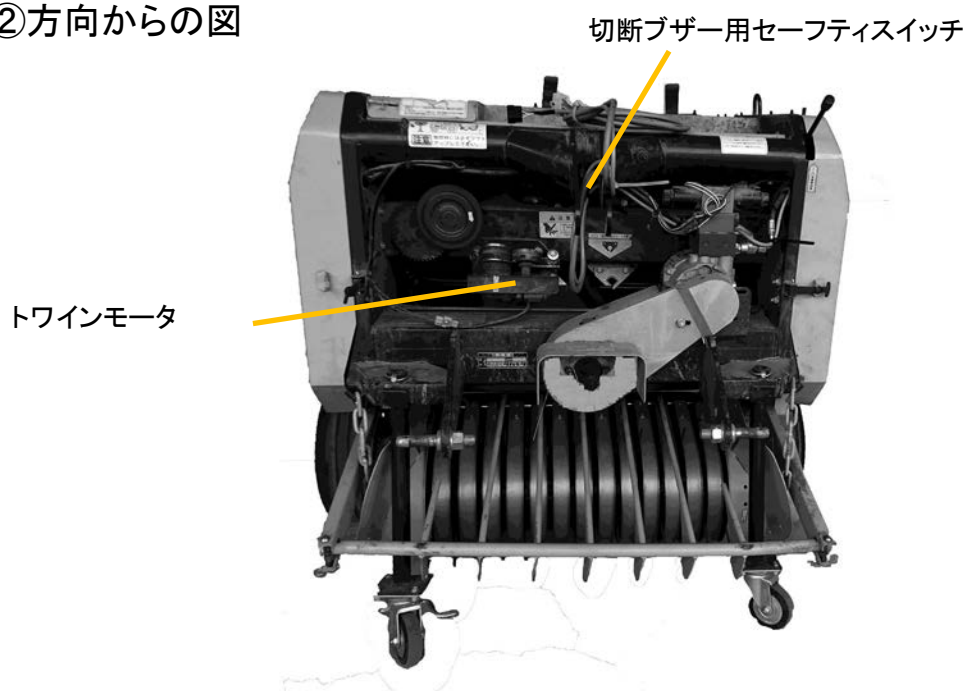
3. 電装の位置

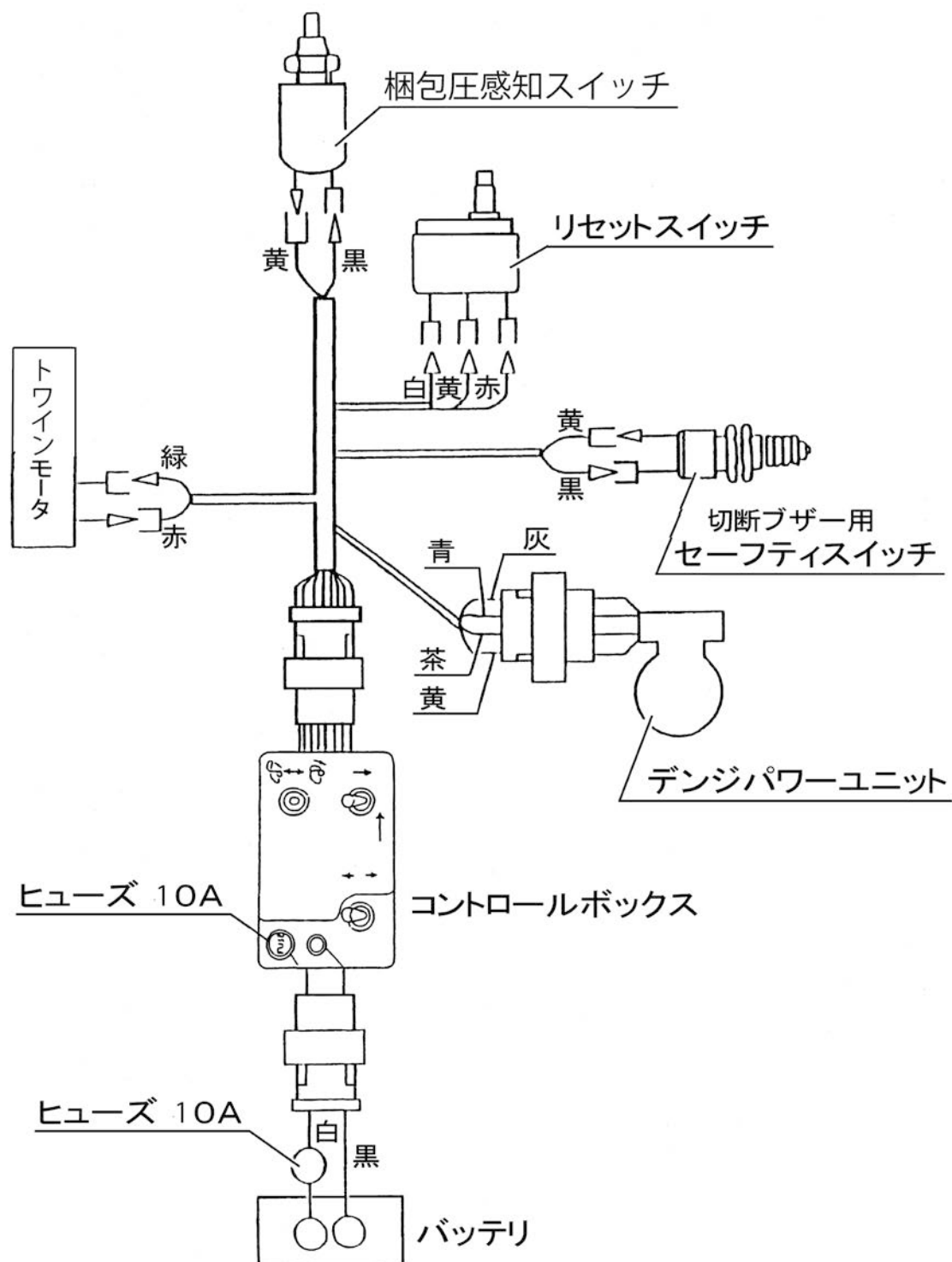


①方向からの図



②方向からの図

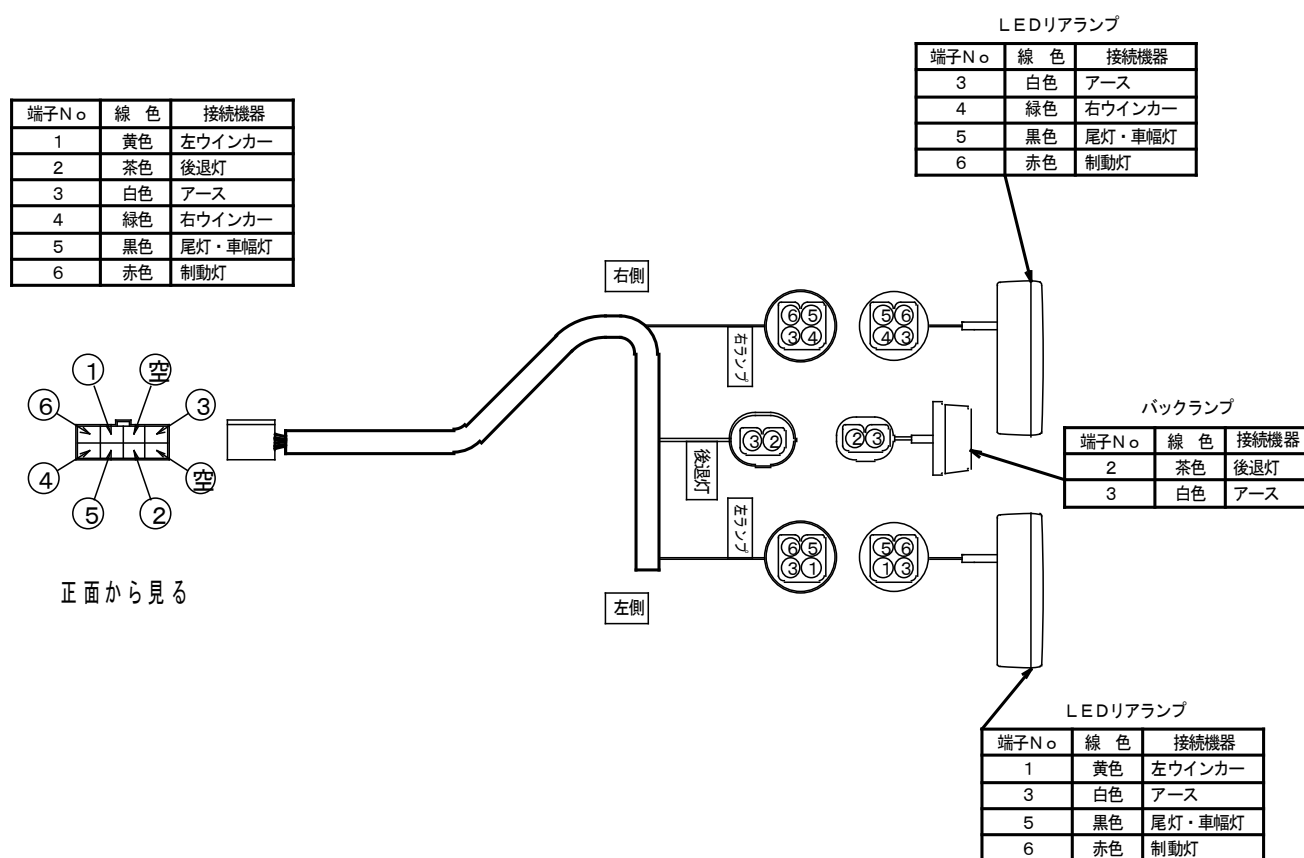




付 表

5. 配線図 2

◆テールランプ



◆変換ハーネス

トラクタ側の燈火装置用ソケットが日農工規格で定めるトレーラ用接続コネクタ(CN8 極コネクタ)ではなく、DIN 規格品(7PDIN ソケット)の場合変換ハーネスを取り付けてください。

次の図のように変換ハーネスを取り付けてください。

ハーネスは必要に応じてリピータイで固定してください。

端子No.	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

端子No.	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

